One Purpose

同志社大学通信

FOR BETTER COMMUNICATION

136

2003 October

DOSHISHA UNIVERSITY

特集● 1 同志社ローム記念館と情報メディア館が始動
2 10周年を迎えたジョイント・セミナー

同志社人訪問● GHQ占領期保健制度研究者
二至村 菁 さんに聞く

One purpose

CONTENTS

2003 OCTOBER No.136

特集1

同志社ローム記念館と情報メディア館が始動 2

特集2

10周年を迎えたジョイント・セミナー 5

OP COMMENTARY
青山 謙二郎　文学部助教授　狭き門より入れ 8

同志社大学21世紀COEプログラム拠点形成計画報告会 9

上京を考古学する人たち　～新町キャンパス第1従規館跡地の発掘現場から～ 11

2002年度大学決算について 13

ゼミ・ぜみ おじゃします　商学部 商学科　谷本　啓ゼミ（3年次）
いまという時代に適した昇進管理を探る 15

INTERVIEW ～同志社人訪問～

GHQ占領期保健制度研究者
二至村（にしむら） 菁（せい）さんに聞く 17

CAMPUS NEWS
2003年度卒業式・学位授与式、2004年度入学式の日程が決まりました／アーモスト大学・同志社グリークラブ交歓演奏会／新規採用教員一覧／経済学部基礎ゼミナールの取り組み／京田辺キャンパス通学路に防犯設備設置／本学教員の新刊／同志社ハワイ寮のルーツを訪ねて／新学部・学科および研究科の2004年度入学生学費について 20

BOOK・CD
辰巳 和弘　歴史資料館助教授『庶民列伝－民俗の心をもとめて』
清水　穣　言語文化教育研究センター助教授『イラク：ウードの巨匠』 23

MY JOB,MY LIFE ～シリーズ私と「仕事」～
・矢谷 麻子さん（1992年　法学部政治学科卒業）
・田中 武志さん（1993年　工学部機械工学第二学科卒業） 25

COVER STORY
表紙の情景
[馬術部]

夏季、馬術部の練習は、毎朝7時からスタートする。これは暑さに弱いという馬の生態に合わせてのことだ。

馬の世話も、ほぼ全てを自分たちの手で行う。練習後、汗をかいている馬体を洗い、カゼをひかないように水分をふき取る。次は蹄に溜まった土をブラシで洗い流し、蹄油を塗り、体が乾いてきたらブラシをかけて毛並みを整える。練習の後、毎日これを繰り返す。また練習の無い日にも、各馬の担当者がその馬の世話を、そして餌やりは当番の者がする。

毎日の練習や手入れによって、技術だけでなく気持ちの上でも人馬一体となることが大事なようだ。馬と一体になってうまく障害を越えた時、最も充実感や爽快感があるそうだ。28人の部員と13頭の馬からなる同部は、人と馬が上手に共存しているように見える。

彼らは昨年の全日本学生賞典において個人で3位、団体で6位という好成績をあげており、現在は次の障害飛越競技大会に向け、毎日朝早くから練習を続けている。

特集1

同志社ローム記念館と情報メディア館が始動

この秋、京田辺キャンパスに「同志社ローム記念館」と「情報メディア館」からなる情報メディア施設がオープン。今回は、同施設の運営委員を務める3人の教員と、日ごろから情報機器を利用した活動を行っている学生2人に、本学におけるマルチメディア環境の中心となる両館の魅力や可能性について話し合ってもらった。

同志社ローム記念館側からみた情報メディア施設

右側が情報メディア館

片山●同志社ローム記念館（以下「ローム館」）と情報メディア館がこの秋オープンします。両館は単なる情報施設ではなく、情報を柱にしながら知的創意を生み出す場として建てられました。2棟は屋外テラスなどの共有スペースで結ばれていますが、多少異なった性格を持っており、ローム館では、コンテンツ制作やソフト開発などのプロジェクトを行うこと、情報メディア館では、正課授業での使用を主な目的としています。

藤本●ローム館には、プロジェクトの成果発表などを行うステージ空間（劇場空間）が設けられていますね。ところが、この空間は解放構造となっているために音響装置が使えないと伺っています。私が所属する『同志社－DoGA デジタルドリーム』（通称"D4"）は、今回のプロジェクトに参加する予定ですが、その作品にはどうしてもデジタル音を使わざるを得ないのですが。

渡辺●劇場空間は、構造上大音響で常時用いるということは想定していません。しかしメディアコンテンツの表現では光と音は必須のツールとなるでしょうから、時間を区切っての運用で対処することを考えています。また、セミナールームなど館内の他の施設の利用でも対応できると思います。

劇場空間

片山●少し説明を加えますと、ローム館では産官学、そして地域連携のもとに有能な人材を育成することをめざしています。その切り口としてプロジェクトを位置づけ、今までにない展開をいろいろと模索しているわけです。したがって従来の情報施設のように決まったかたちがあるわけではなく、学生たちの方でこんな使い方もあるよ、と引っ張っていってもらう方が私たちの描いているものに近いと思います。

藤本●設備面で言いますと、こんなに揃っているところはそうありません。何かやりたいと考えている学生にとっては、クリエイティビティをすごく刺激される環境だと思います。それだけに、意欲のある学生をどうやってロ

PCエリア

ーム館に取り込んでいくかというのが今後の課題になるんでしょうね。

山田●実験場であるということ、これが大事なんですね。失敗を恐れてついつい萎縮してしまう。現代社会全体がそんな風潮ですよね。学生たちも、失敗しそうなこと、恥をかきそうなことはなるべく避けて通ろうとする。でも、本当は失敗や挫折からの方が学ぶことが多いのです。だからまず、藤本君たちのような意欲のある学生が作品を制作する。たとえ未熟であってもいいからそれを発表する。それを見た人が触発されてまた新たに作品づくりに挑戦していく。こうしてコンテンツがどんどん蓄積されるとともに、人と人、企画と企画が連鎖して、いくつものプロジェクトが生まれていく、そんな自由で出会いのいっぱいある空間に育って欲しいですね。

高塚●プロジェクトには、クラブやサークルといったグループで参加するのではなく、個人で参加してもいいのでしょうか。

山田●2人、3人からでも参加することができます。個人の発想や考え方を大切にしながら、グループワークしていくことがこの施設の特長です。

高塚●ガラス張りの建物で、いかにも"IT"という印象ですが、想像しているよりずっと敷居は低いんですね。ちょっと興味が湧くイベントに出会ったらそれに参加してみる。あるいは仲間を誘って、何かやってみる。企業や地域の皆さんと一緒なら、フォローもしてもらえるし、安心してチャレンジできそうですね。

藤本 貴大（たかひろ）さん
【経済学部経済学科3年次生】
CGムービーサークル『D4』会長
映画研究会にも所属
新しいデジタル文化の普及活動を行うPROJECT TEAM DoGAと連携して、CGを使った映像作品などの制作を行う予定。

渡辺●かといって何をやってもいいということではなく、そこには自ら規制が生まれてきます。企業や地域の皆さんと一緒に何かするとなれば、話し方にも気をつけないといけないでしょうし、特許がからんだりすると守秘義務も生まれてきます。そういうこともひっくるめてたくさんのことが学べる場だということではないでしょうか。

高塚●学外とつながっているのは重要ですね。私は、今出川キャンパスよりも京田辺キャンパスで学ぶ人の方が、外とつながりたいという願望が強いんじゃないかと感じていました。なぜかというと、京田辺キャンパスの人は、山の上に閉じこめられているから(笑)。社会との出会いの場が、京田辺キャンパスの中にできたのは大きな魅力だと思います。

藤本●そういう経験が、1、2年次からできるというのはとてもいいですね。

片山●工学部の場合ですと、4年次になって研究室に入ってきます。そうしますと機材の購入から研究まで任されるわけで、やっと大学生らしい自主的な勉強ができる。それまでの3年間というのは、講義を聞き、ノートをとって理解に努めるという、いわば高等学校の延長のような生活をしているわけですから、ローム館のような施設が誕生したことは能動的に学びたいと考えている学生にとって画期的なことではないでしょうか。

プロジェクトルーム

山田●画期的という点でいえば、情報メディア館にある「情報道場」という、畳敷の空間もそうです。

藤本●はじめて情報メディア館に入った時、畳が敷き詰められた教室があって驚きましたが、あれですね。

片山●この教室については、思い入れがいっぱいある山田先生に説明していただきましょう(笑)。

山田●情報道場は、情報教育の究極の形ではないかと思うのです。これまでの情報関連教室はというと、ヒューマン・インターフェイスという点では、劣悪でした。ちょっと言い過ぎかな(笑)。道具であるべきパソコンが目の前にどーんとあって、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを阻害していました。しかしここでは、グループワークやディスカッションなど目的にそって自由なスタイルで学べ、かつパソコンは無線LANで使用できるので、コミュニケーションの邪魔にならない位置に配置できます。例えば、畳の上に資料を広げて車座で議論し、その横でノートパソコンを使って話をまとめる。人を中心にリラックスできる環境の中で、会話や議論がはずむ。これを称して、"井戸端会議システム"と言います(笑)。

高塚 夢花さん
【文学部社会学科社会学専攻
2年次生】
本学学生向けサイト
『同志社ナビ』で渉外担当
学内のメディアを連携させてメーリングリストを作り、学内イベント情報などを一斉に学内に発信する仕組みを企画中。

特集1
同志社ローム記念館と情報メディア館が始動

施設概要

同志社ローム記念館

－学外と交流する知的創造空間－

同志社ローム記念館は、ローム株式会社の寄付に基づいて建設され、大学、企業、地域など産官学地域連携のプロジェクトを通して、次世代の情報メディア社会をリードする人材の育成を目的としています。階段状のオープンテラス、マルチメディア・ラウンジ、プロジェクトルームなどを擁する4階建ての建物で、オープンテラスの上方は大きな吹き抜けになっており、明るく開放的で、創造と交流にふさわしい環境を提供します。本学学生のほかに、同志社女子大学や同志社国際中学校・高等学校はじめ法人内諸学校の学生・生徒・教職員も利用できます。

情報メディア館

－自由なスタイルで学ぶ情報空間－

情報メディア館は、同志社ローム記念館の北側に隣接し、正課授業での使用を目的として建設されました。インターネット授業や他大学との遠隔講義が可能なレクチャースタジオや語学を自主学習できるCALL教室、靴を脱いで利用できる情報道場など、1階～4階までバラエティに富んだ教室が20室ほど設けられており、自由なスタイルで学べる情報空間が広がっています。

第2回 同志社ローム記念館プロジェクトの学生募集案内

今秋からローム館プロジェクトルームで開始予定の各種プロジェクトの第2回学生募集説明会を下記のとおり開催します。関心のある学生のみなさんはふるってご参加ください。

2003年10月10日(金)　**時間** 16:45～17:45
場　所　同志社ローム記念館劇場空間

この他、各誘致プロジェクトの説明会も順次開催する予定です。日時が決定次第、ローム記念館ホームページや大学ホームページへの掲載、学内掲示などを行います。

お問い合わせ先　同志社ローム記念館2階
同志社ローム記念館事務室(電話0774-65-7800)
URL　http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/
E-mail jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

高塚●私たちのサークル「同志社ナビ」の活動でも最終の会議は和室で行うようにしています。その方が、意見が活発に出ますから。

山田●心強いお言葉ですね。意を強くして話を進めますと、情報道場の向かい側にある演習室も同じように授業形態にあわせて自由に机とイスが移動できる融通無碍(むげ)な空間になっています。プロジェクターによるプレゼンテーションも自由な発想で行えるようになっています。

渡辺●ローム館と情報メディア館の2つの施設について共通していることは、知的創意が生まれやすい環境を用意したということです。いわば知的アミューズメント空間なのです。先程、山田先生がおっしゃったように学生諸君は、ここで失敗を恐れず、萎縮することもなく自由な発想で夢を育む。いわば同志社デジタルドリームを育んでいくわけです。

情報道場

片山 傳生(つたお)
【工学部教授】
ローム記念館運営委員会
委員長、総合情報センター所長

渡辺 好章
【工学部教授】
ローム記念館プロジェクト
運営委員会委員長

山田 和人(かずひと)
【文学部教授】
ローム記念館プロジェクト
運営委員会委員

高塚●いま、情報の流れ、時間の流れが速くて夢を見ている余裕がなかなかありません。資格取得など、どうしても最短距離をとりがちです。でもここでは、自分のやりたいことを追い求めながら、スキルアップできそうです。ただ、少々とっつきにくい空気もあり、「使ってもいいんですか?」と聞きたくなってしまいます。やはり、人に使われて初めて生きる施設だと思いますので、誰でも利用しやすいオープンな雰囲気づくりも必要だと思います。

片山●そのための行事として、ローム館でオープニングイベントを予定しています。デジタルアートの展示などさまざまなイベントを開催しますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

ローム館、情報メディア館のインフラは、十分整っています。これから学生に求められているのは、それをどう使っていくかです。知的創意の場である両施設を活用して、同志社の学生が潜在的にもっているパワーを存分に発揮してほしいですね。

（2003年7月18日収録）

同志社AKPプログラム
アメリカの名門15大学が加盟する日本研究のプログラム。同種のプログラムとしては全米ナンバー1と評価され、30年以上の歴史を持つ。本学で行われ、加盟大学へは本学からの留学制度もあり、交流の歴史も深い。

特集2

10周年を迎えたジョイント・セミナー

同志社大学学生とAKP(Associated Kyoto Program)参加留学生との合同クラス「ジョイント・セミナー比較文化論」が、開講10周年を迎えた。英語での講義やディスカッションを通して、国際感覚と英語表現力を養成する科目。担当教員と昨年履修した学生たちが、このジョイント・セミナーの意義について語りあった。

刺激が多いディスカッション

小泉●昨年度のクラスは、「EDUCATION」が大きなテーマでした。授業の一環として、AKP留学生とグループを組んで調査や研究を行う「フィールドワーク」があります。僕のグループは同志社側が2人、AKP側が2人で、テーマは『ハイスクールエデュケーションとポップカルチャー』でした。女子高校生の制服などについて研究したのですが、グループを通して彼らと友達になれたことも成果の一つでした。

小松●小泉くんのグループは楽しそうでしたよね。同志社大学のジョイント・セミナーは秋学期の科目、つまり10月開講なのですが、AKPのプログラムでは9月の開講で、約1カ月のずれがあります。9月から参加した同大生は、私を含めて2人だけでした。日本人としての意見が貴重に思われたのか、よく質問され、これをきっかけに彼らとはすぐに親しくなれました。

ヴォス●僕が履修した理由は同志社大学の学生と知り合いたかったからです。AKPのほとんどのプログラムが、同志社大学とは別になっているんですよ。

小泉●授業のリーディングマテリアルは量が多くて、苦労しましたね。また授業中は自主的な発言を常に求められるのですが、活発に発言するAKP留学生の姿に刺激を受けました。同大生も彼らに負けじと積極的になっていたのが印象的でした。

パヴロスカ●たとえば『ニューズウィーク』誌の英語版と日本語版、両方をマテリアルとして使いましたね。英語の文章なら1回の授業で最低9ページを課題にしていましたが、同大生は少し大変そうでした。

ヴォス●アメリカの学生にとっては、ちょっと少ない量です。普通の文学部なら1回の授業で50ページ以上は読みますからね。

ハバード●私もアメリカに留学した当初は、授業やディスカッションのやり方にはとまどったものです。アメリカと比較して、この授業はどうでした?

スザンナ・パヴロスカ　言語文化教育研究センター助教授
マキ・ヒラノ・ハバード　AKP所長、Smith College 準教授

小松●2年の秋から1年間AKP加盟大学の1つであるSmith Collegeに留学しましたが、その時に受けていた政治の授業は、確かにどれもディスカッションが中心でした。同志社大学ではゼミぐらいでしかディスカッションが行われないので、ジョイント・セミナーでは、最初の頃、ディスカッションそのものに不慣れな同大生は議論に入っていけずに苦労していました。そこで、パヴロスカ先生は、学生を少人数のグループに分け、まずその中でディスカッションをし、その後で、その結果をグループの一人が代表して述べるという方式に変えてくださいました。これで同大生も発言しやすい環境ができました。

パヴロスカ●以前は議論を熱く戦わせるために、わざと同大生が怒るような質問をすることもありましたが、AKP留学生は慣れているからどんどん発言する、一方同大生はどんどん静かになっていきました(笑)。そこで、今後は自由でフランクな意見が出せる環境を作ろうと思いました。また学生たちの経験からいろんな情報を提供してもらって、有機的なディスカッションが生まれるように気を配っています。

ハバード●日本とアメリカとは大学教育のダイナミクスが違いますよね。その「違い」も、AKP留学生にとって文化の違いを学ぶ糸口に

なるし、これを踏まえてディスカッションもできます。英語だけを学ぶのではなく、日米の文化をも学ぶクラスですからね。

学生主体の「生きている科目」

パヴロスカ●この科目の一番のポイントは、AKPと同志社、両方の学生が興味を持つようなテーマを扱っているということ。私の仕事は授業や発表を盛り上げることだけです。

ハバード●パヴロスカ先生は謙虚におっしゃいますが、どんなゲスト・スピーカーを招くか、テーマをどう設定するかを常に考え、クラス運営に変化を付けておられますよね。

パヴロスカ●この科目は、毎年少しずつ悪い点を修正して良い点をより良くしていく「生きている科目」なんですよ。レクチャー、ディスカッション、フィールドワークという3本の柱は開講当時から変わっていませんが、その3本柱の中でも、フィールドワークはどんどん大きな存在になっています。フィールドワークを通して、学生たちの絆は強くなっていくのです。また、次年度からは毎週学生に日記を提出してもらって、意見を聴くつもりです。学生たちの意見がクラス運営にフィードバックされる、つまり「学生が自分たちで作る科目」と言えますね。

座談会参加者（左から）：小松　純子さん（法学部法律学科4年次生）、
小泉　基良さん（文学部英文学科4年次生）、ステファン・ヴォスさん（AKP留学生）

小泉●同大生は就職活動、AKP留学生は冬期休暇前のレポートで忙しく、フィールドワークに使える時期がうまく合わないときなどは、先生に相談するとフィールドワーク用の時間を授業の中で設けてくださったことがありましたね。授業の進行が柔軟なんです。だからこれから受講する学生も「自分たちで作ることができる」ことへの自覚を持って活発に意見を言っていけば、もっともっと良いクラスになるかなと思います。

自分の意見を持つことが大事

ヴォス●ジョイント・セミナーに参加して、同志社の学生のみなさんと価値のある人間関係が築けたと思います。ただ後半は就職活動や試験などでお互い忙しくなるので、これから履修しようと考えている人には、なるべく早くからその関係を築くことをお勧めします。

小泉●僕はこういうクラスが学内にもっと設置されてもいいと思います。たとえば学部ごとのテーマを立てて留学生と意見交換する授業も面白そうですね。先生方は大変だと思いますが、学生にはいい経験になるでしょうね。

小松●ジョイント・セミナーを履修している同大生は、留学経験や海外在住経験のない学生たちの方が多いんです。英語でコミュニケーションをとることに熱意があり、自分の意見をしっかり持っている人であれば受講できるので、いろんな人にぜひ挑戦してもらいたいですね。国際交流ができる貴重な機会でもありますから。

パヴロスカ●英語力だけでなく、自分の考え、意見をきちんと持っている人は大歓迎です。そして留学に負けない国際交流や人との出会いを経験して欲しいと思います。

Quotes from student's view

Some of the most enjoyable moments [of this class] were that we were all involved in heated discussion about ideas for research and presentations. It forever destroyed my image of a passive Japanese college student.

- Venu Dhanaraj, Wellesley College

In discussions, when our group had two different opinions, it was not by race or ethnic background, but because of individual ways of thinking. Realizing that differences due to country background are small, I could make friends with the AKP students.

- Mayuko Kaneda, Commerce

創始者たちが思う ジョイント・セミナー

～学生へのメッセージ

11年前の開講時に尽力された先生方から、今後ジョイント・セミナーの受講を考えている学生の皆さんへ向けてメッセージが届いた。

左から岡田名誉教授、Rohlich教授、松井名誉教授

創始者の一人としての願い

松井　進平 名誉教授

「ジョイント・セミナー」がすでに10周年を迎え、今も学生諸君に知的刺激に富んだ有意義な科目として受け入れられていることは非常に嬉しいことです。

私はこのセミナーを、日米の学生の知的相互作用を通して、固定観念にとらわれず、客観的な視点から(日本)文化を見る能力を養う「教養科目」と考えています。従って、このセミナーで扱われるいろいろな日本文化の側面のすべてに対して、学生諸君が自分の専門やこれまでの個人的興味に関係なく、同じ知的好奇心を持って取り組んで欲しいと思います。教養を積むには、また一つの文化を理解するには、このような態度が必須だからです。

このセミナーに参加できる諸君ならば、言葉(英語)の流暢さよりも、考え・話す内容の方に力点を置いて欲しいと思います。たとえ言葉は訥々としていても、内容が優れたものであれば、相手は理解しようと聞き耳を立てるものです。

英米など英語圏の国に在住する機会に恵まれなかった学生諸君が多くこのセミナーに参加して、その知的地平を広げて欲しい。これはジョイント・セミナーを創るときに考えていたことです。

楽しく心の交流を

岡田　妙 名誉教授

Marshall McLuhanやAlvin Tofflerが予見したとおり、世界は一つの共同体、McLuhanの言う「地球村(Global village)」に早くもなってしまったと私は感じています。街を歩いても、電車に乗っても、市民行事に人が集っても、外国の方の姿を見かけることは珍しくありません。

そんな中で、お互いが人間らしく自然にごくさりげない付き合いをするようになるためには、人の心も地球化しなければなりません。大昔から青年知識層は国を飛び出して身を修めること、つまり自らを国際化することに生き甲斐を見出してきました。

今日では、国際化は日本国内の日常の現実になりましたから、国内にいて国際体験をすることは、現代を生きる者の必然でもあります。大学生同士なら教場を共にして互いの内面をぶつけ合い、その中から大いに学ぼうとするのが当然です。そして、そんな場の一つがジョイント・セミナーなのです。

ジョイント・セミナーは共同体ですから、年度ごとに集まってくる学生たちが中心になって創り上げていく科目です。だから発足以来、いろんな点で毎年、違った内容に仕上がっています。ジョイント・セミナーはその意味で学生たちのものなのです。大いに楽しんで活用してください。

Launching the Joint Seminar

Thomas Rohlich, Smith College

During my first term as AKP Resident Director, Professors Matsui and Okada and I discovered that we were of a mind that something should be done to bring the AKP and Doshisha students into closer contact. All three of us agreed that the key to successful interaction was best built on an academic foundation. Students come to the University to study, and if they can study together they will inevitably work together and learn from each other. We were convinced that the best solution was to develop a way in which the students could study together in a class. Thus, the idea of Joint Seminar was born.

Despite various problems, the course has proved to be a great success. It has also led to lasting friendships outside of class, many of which remain to this day. As it enters its second decade, it remains greatly popular with the AKP students, reflecting a growing tradition of lively intercultural communication that has become a key part of the AKP and Doshisha curriculum. (AKP Board Chair)

2004年度の募集要領については、1月ごろに教務課から掲示で発表予定です。

狭き門より入れ

―基礎的な学問から入れ―心理学の例

文学部助教授
青山 謙二郎

「狭き門より入れ」という聖書の言葉を強引に引用して基礎的学問の宣伝をします。心理学の例で話しますが、他の学問でも同じ事だと思います。

空腹のネズミに小さな餌粒を与えると、はじめは勢いよく餌を食べますが、徐々に食べる反応のペースは低下していきます。私が研究しているのはこの反応のペースの変化で、専門的に言えばオペラント行動のセッション内変動です。

専門用語は難しそうですが、要するにお腹一杯になると食べる行動をしなくなるという当たり前のことを研究しています。「何の役に立つのだ」と時々きかれます。「全ての役に立ちます」と答えます。リンゴや鉛の玉が落下するという当たり前のことを詳しく調べてわかった法則が、後々にあらゆる場面に応用されているのと同様です。応用される元を探り出すのが基礎的な学問です。

昨年、あるシンポジウムが同志社大学で開かれ、基礎心理学の魅力をアピールしました。この文章はそこで私が話したことの焼き直しです。心理学における「基礎」と「応用（臨床）」とは何かを、医学の例から説明します。医学では病気の治療法という臨床の知識がもちろん重要です。しかし、身体や薬物の仕組みといった知識もまた重要です。これが基礎的な知識です。胃の仕組みを知らない医者に胃潰瘍の手術をされるのは誰も好まないでしょう。

同様に心理学では、応用的な知識がもちろん重要です。最もイメージしやすいのがカウンセリングなどの臨床ですが、実際には他にも教育、社会、産業など幅広い分野に応用されています。しかし、それら応用実践的な知識だけを身につけても、心理学をきちんと学んだことにはなりません。応用される元になる知識を供給するのが基礎心理学で、ここでは「こころや行動に関する法則」を探っています。この知識を身につけないと「身体のことを知らない医者」のようになってしまうのです。

数年前、アメリカのワシントン州立大学で研究していたとき、ある学生からカウンセリングと学習心理学のどちらを登録すべきか相談を受けました。基礎心理学である後者を登録するよう薦めました。基礎を知らずに応用を学ぶことはアンバランスなことだからです。もう一つの重要な理由は、基礎心理学は一般の学生が一人で学ぶことが難しいものだからです。カウンセリングの本は多くの学生が自分で読むことができます。学習心理学の本を自分で読み解くのはもっと骨が折れます。だからこそ授業で解説を聞くことが重要なのです。

卒業して臨床など様々な現場で働いている人たちからも「応用的な技術は現場でも身につけることができるが、科学的な心理学の考え方については学生の間でないと身につけることができない」という声が聞かれます。幸い、同志社大学の心理学専攻では「基礎」と「応用（臨床）」を結ぶという事をテーマとして、研究と教育を続けています。ですから、それらの人々は「学生時代に基礎的な知識を身につけることができて良かった」と言ってくれます。心理学に限らず、大学生の間に基礎的な学問を学ぶことが、狭き門から入ることだと思います。もっとも中には、「学生時代にもっと基礎的な知識を身につけておけば良かった」と言う人もいて、まだまだ反省させられます。

Kenjiro Aoyama

大阪府出身。1993年に助手として同志社大学に入社。専門は学習心理学・行動分析学。趣味は阪神タイガースとアメリカン・フットボール観戦。

同志社大学21世紀COEプログラム拠点形成計画報告会

21世紀COEプログラムは、大学に世界最高水準の研究教育拠点を分野ごとに形成し、創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行うという文部科学省の新規事業である。

本年度、同志社大学から2つの拠点形成計画が採択されたことを受け、7月26日、今出川校地で報告会が開かれた。大谷實総長による挨拶、八田英二大学長によるプログラムへの取り組みについての説明に続いて、各拠点リーダーから研究計画の概要が発表された。

本学から2つのプログラムが採択

大谷 實 総長

COEプログラムは大学における研究の発展のために非常に魅力的な制度です。昨年の選定漏れを受け、大学長をはじめ教職員の取り組みは迅速、適切でした。外部人材の登用、各プログラムの受け皿となる研究センターの立ち上げ、研究開発推進機構の創設等、さまざまな施策が講じられました。本年度は、申請した6件のうち2件が採択されましたが、それは同志社教育の根幹をなす神学を軸としたプログラムと、時代の最先端を行く技術・企業の国際競争力を研究対象とするプログラムでした。これは同志社の建学の精神にも沿うものであり、この2つのプログラムが十分な成果を上げることを切望しています。

プログラムの骨子は「セキュリティ」「ヒューマニティ」「クオリティ」

八田 英二 大学長

COEプログラムの将来構想において、本学は、人々の安心・安全・幸福の追求を"セキュリティ"、"人道・人権・社会正義の実質化と保障を"ヒューマニティ"、"豊かな社会を実現するシステムの構築を"クオリティ"として位置づけ、この3つのコンセプトの下、同志社大学にしかできない、同志社大学だからできるプログラムの立ち上げをめざしました。

プログラムへの支援策として、まず、特別教員枠を設け、客員フェロー制度を定め、研究者の充実を図りました。次に、研究開発推進機構を新たに立ち上げ、各プログラムの受け皿となる9つの研究センターを発足させました。「一神教学際研究センター」「技術・企業・国際競争力研究センター」「ヒューマン・セキュリティ研究センター」「社会的共通資本研究センター」「バイオメディックス研究センター」「竹の高度利用研究センター」「日本会社法制研究センター」「メディア・コミュニケーション研究センター」「エネルギー変換研究センター」の9センターです。

私としては、今回の採択をゴールではなく出発点と捉え、採択された2件のプログラムはもちろん、残念ながら採択に至らなかった他のプログラムの遂行についても、全力を傾注する所存です。

採択プログラム「一神教の学際的研究」
―文明の共存と安全保障の視点から―

森 孝一 神学研究科教授

今日パレスチナではユダヤ教とイスラームが対立し、また、アメリカ同時多発テロとイラク戦争ではユダヤ・キリスト教とイスラームが対立しています。世界が直面しているこうした緊急課題、つまり、文明の共存と安全保障を実現するために、ユダヤ教・キリスト教・イスラームの3つの一神教について、文明論的な視座から総合的かつ学際的に教育研究することが必要です。

同志社大学は創立以来、キリスト教研究とアメリカ地域研究で高い評価を受けています。本プログラムはこの実績を基に、宗教研究では対象をイスラームに拡大、地域研究では中東、東南アジア、EU、ロシアに拡大します。これらの研究を通じて、文明の共存をめざすスペシャリストを養成することが本プログラムの目的です。

研究計画としては第一に「グローバルな共同研究体制」を構築します。各国の諸大学・諸研究機関と共に国際ワークショップや国際シンポジウムを実施します。第二に「世界へ向けての研究成果の発信」として学術ジャー

ナル『比較一神教研究』を発行します。第三に、3つの一神教の「聖職者の交流」を促進します。第四に、一神教研究についての学術ウェブサイトを構築し、「研究者間の情報ハブ」としての役割を果たします。学術ジャーナルとウェブサイトは、英語、アラビア語、日本語で発信します。

教育プロセスは3段階を設けます。第1段階「チュートリアル・エデュケーション」では、研究テーマごとに少人数のグループを形成し、きめ細かな基礎研究を行うと同時に、英語・アラビア語・ヘブライ語を学習します。第2段階「オンサイト・エデュケーション」では海外の研究機関でフィールドワークを行います。また、マレーシアに「異文化理解・語学研修センター」を設け、海外拠点とします。第3段階「インディペンデント・エデュケーション」では、大学院生が自主的に海外の大学院生との共同研究や国際ワークショップを実施し、各自の研究課題を国際学会で発表しつつ「チュートリアル・エデュケーション」におけるCOEリサーチアシスタントとして後輩の指導補助にあたります。

このように循環的に機能する教育プロセスから、文明共存のための新たなパラダイムを構築するスペシャリストが誕生することを願います。

採択プログラム「技術・企業・国際競争力の総合研究」

中田 喜文 総合政策科学研究科教授

本プログラムは、日本企業、日本経済の国際競争力を再構築するために、いま最も必要とされる技術（Technology）と革新的経営（Innovative Management）、いわゆるTIMについての総合的研究を行うことを主目的とします。

技術を生むのは人であり、人は組織の中で研究活動を行います。どれくらい生産的な研究活動ができるかは、人および組織によって変化します。さらに、組織つまり企業が技術を商品化して市場に出し、競争に勝つことで初めて次の研究の原資が獲得できます。つまり①技術戦略②革新的経営と組織③国際競争力の3つが相互関連性を持つものとして総合的に考えなければなりません。そのため本プログラムでは、さまざまな学問的背景を持つ研究者が、開かれた産官学連携組織で研究を推進します。

教育活動の面では、特徴ある4つの制度を導入します。まず、学内他研究科院生を対象とする「オープンチュートリアル」、次に、学内他研究科および国内他大学研究科後期課程在学中でTIM研究を行う学生を当センターに受け入る「リサーチインターン」。この2つは本年度から開始します。来年度以降は、TIM分野の博士論文を作成する海外の大学生を対象に集中的なワークショップを設け、その選考生を当センターのアソシエートフェローとして招聘し、研究・指導を行う「公開大学院教育」を開始。最後に、本学・ケンブリッジ大学・カリフォルニア大学バークレー校の3大学国際拠点連携方式でTIM専門博士を独自に養成するTIM専門課程大学院の創設です。

本プログラムで生まれた研究成果は、3大学共同編集のワーキングペーパーおよび国際的な学術雑誌『Asian Business Management』を発行することによって、タイムリーに社会へ還元していきます。

グローバルな連携で生まれた研究成果をいかに政策や企業戦略へと還元していくか。この分野の研究教育はいまだ黎明期にあり、今後の発展性は非常に高いと言えます。

記念講演

各拠点リーダーの報告発表に続いて、新任教員2人から研究テーマについての記念講演が行われた。

『イスラーム研究のパラダイム転換 ―オリエンタリズムから一神教学際研究へ』

中田　考　神学研究科教授

イスラーム研究には2つの体系が存在します。「イスラーム世界の伝統的なイスラーム研究」と「欧米を中心とする非イスラーム世界のイスラーム研究」、すなわちオリエンタリズムと呼ばれるものです。従来、日本でのイスラーム研究は、後者の流れを汲むものでした。

オリエンタリズムは、古くは聖書学、西洋古典学の教養をベースとしたイスラーム世界のみの研究を指しましたが、西欧の世界進出に伴い、17世紀には中国学、18世紀にはインド学が含まれていき、近代的な学問としての体系は19世紀の西欧で整います。しかし、第二次大戦後の荒廃で、研究の中心はアメリカに移りました。これは同時に、古典学から、地域研究すなわち社会科学・政策科学へとディシプリンの転換が起きたことを意味します。ただ、その視点は他者としてイスラームを見る視点に留まっていました。

このような歴史を踏まえ、一神教学際研究では、伝統イスラーム学研究に加えて、西洋の聖書学と西洋古典学の原点に立ち返り、3つの一神教を総合的に捉え、また東南アジア、特に日本から最も近い典型的他民族・他宗教国家であるマレーシアのイスラームを重視し、今日の世界を捉えていきます。

『独創的な若者たちがその力を発揮できる社会をめざして』

山口　栄一　マネージメントスクール教授

1990年代後半以降、大企業の多くの研究者がコスト削減のため研究の場を失っています。日本のイノベーション・システムの再構築が、現在危急の課題となっているのです。

『イノベーションのジレンマ』の著者クリステンセンは、性能を下げたイノベーションが企業を失敗に追い込むというメカニズムを「破壊的イノベーション」と呼びました。しかし現実には、性能が向上した製品を開発したにもかかわらず、企業が失敗に終わる事例が存在します。私はその原因を、不可能とされていたことを可能にする「パラダイム破壊型イノベーション」が生じなかったからだと考えます。これは、企業内において、研究者と経営者との間に新しいパラダイムや新技術についての暗黙知を共有し、伝播できる「共鳴場」がなければ生成しません。

イノベーションの再構築は、社会の中にいかに「共鳴場」を育めるかにかかっています。理工系の人間が独創への魂を社会に伝えていくとともに、文化系が技術の位置づけを学ぶことのできる「共鳴場」をさまざまなかたちで創出することが望まれます。当プログラムを契機に、そうした場を同志社大学に作りたいと考えています。

上京（かみぎょう）を考古学する人たち

～新町キャンパス第1従規館跡地の発掘現場から～

歴史資料館のメンバーと学生スタッフ。第1従規館跡地の発掘現場にて

6月21日、晴天。

いつもは大学生でいっぱいの新町キャンパスに老若男女が集まってきました。この日、20年近く前までは体育館だった第1従規館跡地で、遺跡の現地説明会が開催されました。地表下2mの地面に見えるのは、室町時代から江戸時代に使用された穴や溝、石組みの井戸。「どうしてこんな穴や溝がこの場所にあるんだろう」。そんな疑問に、この遺跡の調査にたずさわった文学研究科博士課程（後期）・歴史資料館調査研究員の松田度（わたる）がお答えいたします。

今回の発掘調査は、新研究室棟（仮称）の建設にともなうもので、4月に開始しました。調査地点（同志社大学第1従規館地点）は、同志社大学新町キャンパスの南端、境界の外の飛び地にあって、その北半分が近衛殿表町（このえでんおもてちょう）、南半分が元本満寺町（もとほんまんじちょう）に属します。南半分は、その地名から室町時代の法華宗寺院・本満寺の跡地（注）と推定されていました。

調査の結果、江戸時代の町家の一角と、室町時代後半代に埋没した堀・溝がみつかりました。江戸時代の蔵・井戸・地下蔵（貯蔵庫）は、現在静かなブームとなっている京都の町家での暮らしを想起させるものです。室町時代の堀・溝は、室町時代の上京各地に設けられていた「構（かまえ）」とよばれる防御施設に関連する可能性があります。特に、本満寺という寺院の実態を考えるうえでも、新たな資料を提供することができたといえます。

歴史資料館は、これまでにもキャンパス内の建物の建て替えにともなう発掘調査を行ってきました。その調査と研究の成果は、京田辺キャンパスにある歴史資料館の展示に反映されています。今回の調査成果も、展示内容に反映させていこうと思います。また、現在建築中の新大学会館（仮称）内にも、昨年実施した旧大学会館跡地（室町時代の将軍邸「花の御所」推定地）の調査成果をもとにした、歴史展示エリアが設けられる予定です。

歴史資料館では、これらの調査・研究成果をもちいて、本学が位置する上京の歴史を徐々に明らかにしていきたいと考えています。

展示室で来場者に説明をする学生スタッフ

スライドで発掘調査の様子を紹介

歴史資料館 専任講師　鋤柄俊夫先生。
この発掘調査の牽引役

注　本満寺とは、現在寺町通鶴山町に所在する法華宗寺院。室町時代の京都において町衆（ちょうしゅう）たちの拠り所ともなっていた法華宗寺院は総本山21カ寺を数えましたが、本満寺は上京に所在したそれら数カ寺の総本山のひとつとされています。

ところで、今回の現地説明会を含め、発掘調査やその成果の公開・普及活動を支えてくれているのは、歴史資料館の業務にアルバイトとして参加している約50人の学生スタッフです。彼・彼女らの活躍は、歴史資料館のオリジナルホームページ（http://hmuseum.doshisha.ac.jp/）でも紹介されていますが、発掘調査はもちろん、出土品の整理、展示の準備や案内まで、学生スタッフのアイデアと努力が生かされていることも、大学ならではといえるのではないでしょうか。もちろん、それを支えている歴史資料館の専属スタッフを忘れることはできません。

出土品の整理作業は現在、新町キャンパス臨光館地下にある整理事務所で行われています。見つかった土器の洗浄から出土場所の注記、分類・接合復元と実測図作成という作業が主な業務です。授業の合間をみて、整理作業を手伝ってくれる学生スタッフは、ここでも頼もしい存在です。

来場者に遺跡の構造等を説明。説明者は私、松田度

発掘調査と整理作業にたずさわる学生スタッフの声を聞いてみました。

発掘調査にたずさわってなにを感じますか？

稲山陽子さん（神学部2年）「歴史のまち京都にいるなあという感じがします。教科書で知っていた歴史をもっと身近にイメージできるようになりました。」

疋田由香里さん（文学部2年）「みつかったいろいろなものを丁寧に掘っていても、調査しているうちに壊してしまっているんじゃないかという気がします。だから、それをちゃんと理解してあげたいという気持ち、責任感みたいなものがわいてきます。」

現地説明会にて発掘作業の再現

現地説明会はどうでしたか？

市澤泰峰さん（文学部3年）「忙しかったです。出土品の展示も分かりやすく見てもらおうと思って苦労しました。」

整理作業については？

岡本佑規さん（文学部4年）「それぞれの作業に魅力を感じます。洗っているうちに土器に書かれている文字を発見したり、接合しながら土器が形になっていく喜びとか、実測図を書いてそれが記録として残されることも嬉しいです。」

堀内康武さん（商学部4年）「実際に手でふれて学べる、最高の学びの場だと思いますね。」

遺跡へ足をはこびつつ、私たちはいつしか過去の京都、過去の人々が営んだ風景へとタイムスリップしていきます。この上京の地下には、歴史がぎっしりつまっています。皆さんも、今出川キャンパスに立って、ふと、過去の歴史世界に思いを馳せるときがあるのではないでしょうか。

整理作業の流れ

出土品についた土を洗い流す

出土場所を記入

破片になっている土器をもとの形に復元

2002年度 大学決算について

財務部 経理課

2002年度大学決算は、5月8日開催の大学予算委員会及び大学評議会、5月24日開催の理事会で承認されました。

2002年度は、教育研究条件の整備充実事業として学部大学院教育研究助成費及び学生用図書資料費などの増額、図書関連システムの充実を図ったほか、教育研究環境の整備充実事業としてマルチメディア教室、図書館などの学生関連施設設備の重点的な整備を行いました。また、情報基盤の整備事業としてe-learning実施環境の整備、Linux教育環境の拡充、情報コンセントの増設、スーパーSINETノードの設置、及び情報処理実習教室のソフトライセンス契約などを実施しました。さらに、奨学事業として同志社大学育英奨学金制度の新設をはじめ家計急変者増加に対する同志社大学給付奨学金及び貸与奨学金の増額措置を図りました。その他、マネージメントスクールの開設経費や、リエゾンオフィスならびに学生支援センターの組織発足に伴う事業費に対する予算措置を講じ、就職支援事業の一環として東京オフィス設置にも取り組みました。

建設事業では、学生会館の整備を実施したほか、2003年度完工予定の大学会館及び京田辺校地情報メディア施設の整備事業を計画的に進めました。また、図書館バリアフリー整備事業、京田辺校地国際中高南側駐輪場の整備など特に緊急性の高い施設設備整備事業を優先して行いました。さらに、教員ラウンジ棟の建設や文化庁より重要文化財補助事業の選定を受けたクラーク記念館の保存修理事業を開始しました。

なお、2002年度決算では、大規模な建設事業を実施しているものの概ね事業計画通りに執行し、さらに予算の効率的な執行による経費の節減や寄付金・補助金の新規開拓について重点的に取り組んだことにより、教育研究水準の維持向上を進めながら、財政の改善を図ることができました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は245億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は78%を超え、大きな比重を占めています。

手数料は13億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は7億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金及び機器備品・図書などの現物寄付金のほか、ローム株式会社より情報メディア施設宛の特別寄付金を受け入れました。

補助金は27億円で、国庫補助金が主なものです。このうち経常費補助金について、一般補助では補助金配分額計算に係る調整係数(収容定員に対する在籍学生数の割合)の上昇により増収となった一方、特別補助では学術研究推進特別経費(工学部学術フロンティア)の補助期間終了などにより減収となりました。その他の国庫補助金については、予算計上後に施設設備対象の補助金として研究装置、マルチメディア装置及びバリアフリー推進事業などの採択を受けました。これらの結果、総額では予算に対して3億円の増収となりました。

資産運用収入は4億円で、基本金引当資産の運用収入及び預金などの受取利息・配当金、また施設設備利用料収入などです。

事業収入は2億円で、企業からの委託研究費などの受託事業収入及び補助活動、付属事業収入が主なものです。

雑収入は10億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は13億円で、大学会館建替や新町研究室棟建設に伴う第1従規館ほか2棟の解体除却及び機器備品の償却期間完了に伴う除却額です。

前年度基本金組入額繰延額は3億円で、前年度から繰り延べられた新町北別館の解体除却に係る固定資産減少額を同一資産建替年度である今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は13億円です。学生会館の建設資金、情報メディア施設の建設資金、研究装置の取得資金のための取崩額です。

借入金等収入は1億円で、学校債発行による借入額です。

特定支出準備金取崩額は1億円で、使途特定準備金の取崩額です。

収入の部合計は、343億円となり、寄付金、補助金の増額などにより予算に対して7億円の増収となりました。

支出の部

人件費は138億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は44%と前年度に対して若干増加しましたが、これは退職者の増加に伴う退職給与引当金繰入額の増加によるものです。

教育研究経費は93億円で、大学の経常的な教育研究活動に要した経費です。主に研究費及び実験実習費などの予算繰越による執行残、光熱水費の節減及び通信費の削減などにより、予算額を3億円下回りました。

管理経費は10億円で、大学の維持管理や専門職大学院などの開設準備に要した経費です。主に経費の節減による執行残により予算額を下回りました。

資産処分差額は3億円で、主に大学会館の除却に伴う減価償却未償却額を処分差額として計上したものです。

施設関係支出は29億円です。学生会館、大学会館、情報メディア施設、教員ラウンジ棟の建設事業やクラーク記念館の保存修理事業などの大規模な建設事業をはじめ、図書館バリアフリー整備事業、京田辺校地国際中高南側駐輪場の整備などによる支出です。

設備関係支出は11億円で、教育研究用機器備品・図書など固定資産の取得に係るものです。

翌年度基本金組入額繰延額は6億円で、大学会館などの建替に係る基本金の処理として、固定資産減少額を同一資産の取得年度である翌年度の基本金組入額に繰延べるものです。

借入金等返済支出は6億円で、過年度建設事業に係る借入金の返済額です。私学事業団借入金については定時償還分、学校債返済金については本年度償還額です。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計15億円を組入れました。

第3号基本金組入額は、組入計画に基づき、同志社大学奨学金基金に3億円、同志社大学国際交流基金に2億円を組入れたほか、同志社大学寄付奨学金基金宛特別寄付金を含め、合計5億円を組入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組入れました。

特定支出準備金繰入額は2億円で、使途特定寄付金及び研究費などの予算繰越額を決算において繰入れたものです。

支出の部合計は、321億円で、経費の執行残及び予備費の未執行などにより、予算に対して3億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、寄付金、補助金をはじめとする収入の増加、経費の節減及び予備費の残余などによる支出の減少により改善され、単年度においては22億円の収入超過となりました。

しかしながら、累積消費収支差額は、依然として多額の支出超過を計上することになり190億円の消費支出超過額を翌年度以降に繰越します。

借 入 金

借入金残高は、前年度末に対し5億円減少し当年度末の借入金残高は37 億円となりました。

累積赤字

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

なお、この自己資金の不足額は前年度末の240億円に対して、当年度末は227億円となり、13億円減少しました。

(本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています)

■収支計算書　2002（平成14）年4月1日から2003（平成15）年3月31日まで（単位：千円）

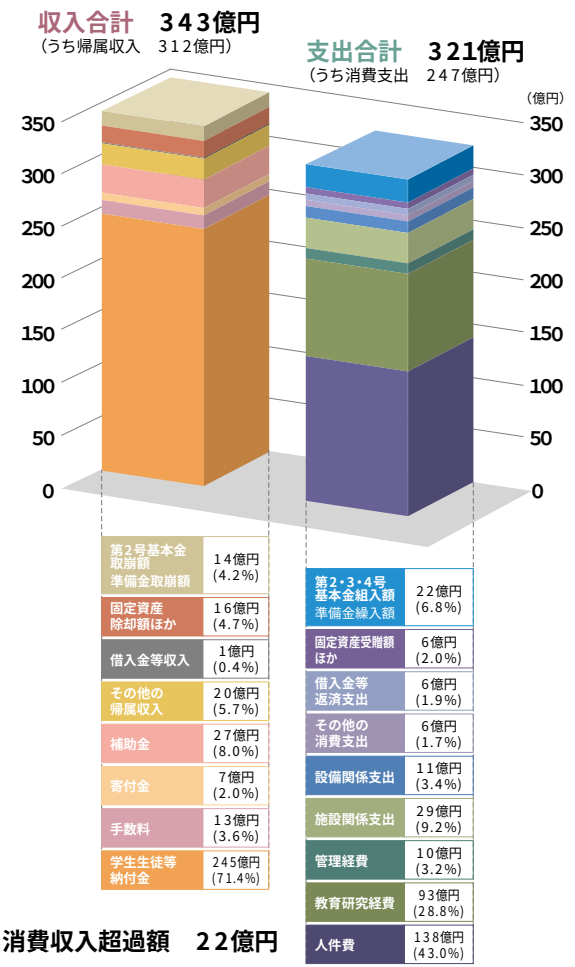
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	24,512,150	24,510,201	1,949
手数料	1,201,100	1,249,770	△ 48,670
寄付金	636,840	708,574	△ 71,734
補助金	2,430,800	2,734,910	△ 304,110
資産運用収入	380,920	421,374	△ 40,454
資産売却差額	0	3,021	△ 3,021
事業収入	116,270	150,834	△ 34,564
雑収入	915,480	934,131	△ 18,651
繰出金	326,410	327,085	△ 675
分担金	116,260	116,260	0
帰属収入合計	(30,636,230)	(31,156,160)	(△ 519,930)
当期固定資産除却額	1,248,770	1,336,702	△ 87,932
前年度基本金組入額繰延額	278,970	278,969	1
借入金等収入	100,000	92,900	7,100
当期末未払金	0	39,076	△ 39,076
第2号基本金取崩額	1,345,000	1,345,000	0
基本金過年度組入額、未組入額合計	(2,972,740)	(3,092,647)	(△ 119,907)
特定支出準備金取崩額	55,110	87,364	△ 32,254
収入の部合計	[33,664,080]	[34,336,171]	[△ 672,091]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	13,822,230	13,825,709	△ 3,479
教育研究経費	9,547,060	9,265,583	281,477
消耗品費他	6,864,860	6,583,388	281,472
減価償却額	2,682,200	2,682,195	5
管理経費	1,078,960	1,026,752	52,208
消耗品費他	1,012,830	960,615	52,215
減価償却額	66,130	66,137	△ 7
借入金等利息	154,860	154,863	△ 3
資産処分差額	291,130	315,527	△ 24,397
徴収不能引当金繰入額	47,890	64,850	△ 16,960
徴収不能額	0	10,911	△ 10,911
繰入金	0	6,576	△ 6,576
予備費	100,000	—	100,000
消費支出合計	(25,042,130)	(24,670,771)	(371,359)
施設関係支出	3,011,220	2,934,782	76,438
設備関係支出	1,310,630	1,094,314	216,316
当期固定資産受贈額	0	65,636	△ 65,636
翌年度基本金組入額繰延額	483,230	561,191	△ 77,961
借入金等返済支出	590,160	590,457	△ 297
前期末未払金	29,300	29,297	3
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	450,000	450,120	△ 120
第4号基本金組入額	1,300	1,300	0
基本金要組入額、当年度組入額合計	(7,375,840)	(7,227,097)	(148,743)
特定支出準備金繰入額	20,670	244,260	△ 223,590
支出の部合計	[32,438,640]	[32,142,128]	[296,512]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
当年度消費収支差額	(1,225,440)	(2,194,043)	—
消費支出準備金繰入額	△ 330,970	△ 1,339,198	—
消費支出準備金取崩額	0	0	—
繰入取崩後当年度消費収支差額	[894,470]	[854,845]	—
前年度繰越消費収支差額	[△ 19,864,560]	[△ 19,864,568]	—
翌年度繰越消費収支差額	[△ 18,970,090]	[△ 19,009,723]	—

借入金			
科目	予算	決算	差異
前年度末借入金残高	[△ 4,131,440]	[△ 4,123,338]	—
当年度借入額	△ 100,000	△ 138,501	—
当年度返済額	590,160	590,457	—
当年度末借入金残高	[△ 3,641,280]	[△ 3,671,382]	—

■収支構成図



消費収入超過額　22億円

用語解説

●収支計算書●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているので、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

●基本金●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産（施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産）の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。
第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

報告班（清岡、小川、福本）●今日は、昇進管理を取り上げます。企業内における上級の役職者数は、下級の役職者数より少ないピラミッド型なので、必然的に昇進できる人は限られてきます。そこで、必要になるのが、選抜です。ただ、欧米企業に比べて日本企業では、入社後数年の間は昇進に差をつけない長期の選抜が行われています。効率性だけからみると、企業は、将来の幹部候補生を早期に選抜し、育成コストを削減したいはずです。しかし、早期選抜を行ってきませんでした。長期選抜のメリットは何でしょうか。

一つには、より正確な選抜を行える点が挙げられます。長期間にわたって蓄積した能力評価に基づいて判断することで、より確かな選抜が可能になります。もう一つには、従業員全員に能力開発や多くの昇進機会を与えることで仕事への意欲が高まるという利点があります。しかし、先ほど述べたように人件費が掛かってしまう。今日のような経済状況下で、企業がその負担に耐えられるかが、大きな問題になってくるでしょう。

〈報告班〉左から、清岡さん　小川さん　福本さん

ところで、企業には、「資格」と「役職」の二つの人事制度があることは、前々回の演習で扱いましたが、企業内昇進にも「資格昇格」と「役職昇進」の二つがあります。いま、そのうちの一つ、役職昇進の遅れが大きな問題になっています。つまり、多くの企業で管理職ポストが不足する事態に陥っているわけです。なぜそうなってきたのか。いま、右肩上がりの経済が期待できない状況で、管理職ポストを追加的

商学部商学科　谷本　啓ゼミ（3年次）

いまという時代に適した昇進管理を探る

新しい人事労務管理手法として注目されている人的資源管理（HRM：Human Resource Management）を研究する谷本ゼミ。「ゼミとは、ゼミ学生全員が作り上げていくものである」というモットーのとおり、ゼミ学生が、幹事、広報、企画・旅行担当の役職につき、ゼミ会報の発行や企業見学、合宿などさまざまな活動を積極的に行っている。演習では、ゼミ学生が報告班、コメント班、一般フロアに分かれて議論を展開。毎回、一般フロアが報告班とコメント班を評価して点数化。その結果をフィードバックして、次回の発表へとつなげている。今回は、福本雄大さん、小川由晃さん、清岡香名さんが、企業における「昇進管理」について報告した。

谷本　啓
（商学部専任講師）

いまという時代に適した昇進管理を探る

に供給するのが難しい。そのため、役職に就けない管理職層が増大しています。多くの企業では、職能資格制度を導入し、従業員の管理職層への登用も職能資格によって決めています。程度の差はあるにしても年齢とともに向上する職務遂行能力などを反映した資格昇格者が、高齢化の影響で、ポスト不足に関係なくどんどん管理職層になっているわけです。

その管理職ポスト不足の対策の一つに専門職制度が挙げられます。専門的知識や経験を生かせる専門職という新たなポストを設けて、管理職層を有効に活用していく。そのために権限、報酬といった経営資源をいかに配分するかが重要となってくるでしょう。

コメント班（田中）●専門職には、どのような種類があるのでしょうか。

報告班（福本）●専門職は、高度専門職と熟練専門職に分けられます。優れた創造性によって付加価値を生み出すのが、高度専門職です。例えば、松下電器産業の特許の専門家、知財技師、また、法律や金融関係の専門家などもそうです。熟練専門職は、企業の各部門において仕事のノウハウなどを継承していく人たちを指します。

〈コメント班〉左から、田中さん　中井さん　石隈さん

谷本●熟練専門職は、専任職ともいわれ、いわば現場のエキスパートです。例えば機械でも計測できないような金型の凹凸を、指先で判別できるような「余人を持ってかえがたい能力」を持った人などが含まれます。

コメント班（石隈）●それでは、次にディスカッションに移りたいと思います。皆さんに少し考えてほしいのですが、昇進選抜において、早期選抜か、長期選抜のどちらが自分に合っていると思いますか。ちなみに僕と中井さんは長期選抜で、田中君は早期選抜です。

藤原●僕は、長期選抜です。早期選抜では、従業員の正確な能力が評価できません。長い期間を掛けてじっくり評価してもらいたいですね。

宗進●僕は、早期選抜を選びます。長期選抜は、企業に能力を見つけてもらうという、どちらかといえば受動的な感じを持ちます。企業内で昇進できるかできないかがはっきりする30代まで待つより、自分の能力を積極的にアピールして、早い段階で結果が分かる方がいいですね。もしいい結果がでなくても、自分の欠点が明らかになり、課題がはっきりします。

コメント班（中井）●アメリカでは、平均3.4年で第1次昇進選抜が行われており、これは早期選抜といえます。それに比べ日本では、平均7.4年。評価の公平性を考えると長期選抜の方に分があり、また、従業員の能力蓄積にもプラス効果があります。

コメント班（田中）●しかし、いま、規制緩和やグローバル化などで、時代の荒波に立ち向かえるリーダーシップをもった人材が求められることを考えると、早い時期から幹部候補生を育成する早期選抜が増えていくのではないでしょうか。

報告班（福本）●ただ、これまでの選抜は、必ずしも専門職の育成を念頭においてきませんでした。いま、高度な専門性が求められていることを考えると、キャリアのなるべく早い段階からの専門職の育成も必要です。

谷本●そうですね。日本企業は、これまで従業員をゼネラリストとして育成する方向でやってきました。しかし、いま社会全体が流動化する中で、高度な知識や技術をもった人たちをうまく連携させて、競争力を高めようとしています。処遇の面でもこれまでの単一的な職能資格制度とは別に、キャリアの早い段階で、従業員の希望に応じて専門職を選抜できる複線型のキャリア人事制度を導入するなど、専門職制度の重要性は増しています。採用においても職種別採用が導入されはじめており、皆さんが就職活動を行う際には、どういう仕事がしたいのか、どういう能力を伸ばしていきたいのか、をよく考えて活動することが大切だといえます。

GHQ占領期保健制度研究者 二至村 菁さんに聞く

三反田●二至村先生は、私の指導教員の細谷先生とはずい分古くからのお知り合いだそうですね。著書『日本人の生命を守った男―GHQサムス准将の闘い』の中にも、GHQ関連の史料収集について細谷先生にご教示いただきました、という記述がありますが。

二至村●20年ほど前、アジア学会のジュニアスカラーズという、若い研究者が参加するセッションがアメリカでありまして、私は、医学雑誌のGHQ検閲について発表しました。その会場に来られていて、発表後に声を掛けてくださったのが、まだ御髪が真っ黒でいらした(笑)細谷先生だったのです。

細谷●私も占領期の日本について研究をしていたのですが、存じあげない方の発表でしたので、どういう研究をされているのかと思い聴きに行っていたのです。

二至村●発表は決して満足の行くものではなかったのですが、先生は熱心に聴いてくださって、コメントをいただきました。初めての学会で心細そうにしていた私をランチにも誘ってくださって、先生が同志社大学からお見えだということや、アメリカ公文書館ではスウェットシャツに運動靴という格好で埃だらけになりながら史料を探されたことなどを伺いました。その時私ははじめて公文書館の存在や、史料を探すには運動靴で埃だらけにならないといけないこと(笑)などを知ったのです。さらに「京都に来ることがあったらいつでも来ていいですよ」という温かいお言葉もいただきました。

細谷●1980・81年当時私は博士論文の準備のために頻繁に公文書館に行っていたのですが、そのとき会った占領期の研究仲間はみんな熱心で、お互い隠し事なく助け合っていました。二至村さんがそう感じられたとすれば、私が同じようなことをしてもらっていたからなんですよ。

二至村●研究をするためには良い先生に付きなさいと言われますが、私はまったく一人だったのに偶然に細谷先生にお会いできて、その後もいろいろと教えていただき、深いご恩を感じています。最初の学会発表の後も、研究史料の所在、国会図書館にマイクロフィッシュ史料が入ったこと、まだ普及していなかったワープロの便利さなどを教わりました。

父の介護のためにカナダで教職を続けることが難しくなった時には日本の大学の客員研究員の職をご紹介いただいたりと、本当に先生にはお世話になりました。学生は、先生に温かく接していただいたことは一生忘れませんよね。こういう先生がおられることが、同志社の校風ではないでしょうか。

三反田●先生が同志社大学に入学された経緯をお話いただけますか。アメリカの大学で生物学の学士号を、カナダの大学院で遺伝学の修士号を取得された後のご入学ですよね。

二至村●高校卒業後、学力不足で日本の大学に入れなくて、奨学金をもらってアメリカの女子大学に入学しました。ただ、寮費が学費とほとんど同額と高かったのですが、当時父は「理科系で勉強するなら」と私を海外へ出してくれたのです。やむをえず理科系の大学院まで進んだのですが、本当は国語の教師になりたかったので、京都に戻り3年次編入学制度のあった同志社大学文学部に入学し

二至村 菁さん
【1977年　文学部文化学科国文学専攻卒業】

1947年、京都市生まれ。米国Earlham大学卒業(生物学)、カナダのMcGill大学理学部修士課程(人類遺伝学)修了、同志社大学文学部卒業(国文学)、京都大学文学部研修員(国語学)、カナダのトロント大学文理学部大学院博士課程(日本史)修了。トロント大学東アジア学部助教授、上智大学国際関係研究所客員研究員を経て、現在トロント大学科学技術史研究所客員研究員。

INTERVIEW

GHQ占領期保健制度研究者 二至村 菁さんに聞く

『日本人の生命を守った男―ＧＨＱサムス准将の闘い』（講談社）
『エキリ物語―GHQと日本の医師たち』（中公新書）

ました。上代文学の土橋寛ゼミで、「万葉集の自然詠」が卒業論文のテーマでした。

三反田●振り返ってみていかがでしたか。

二至村●アメリカの大学では、大量の課題を与えられ、ゆとりがないのです。そういう体験を経て私は同志社大学の学生になりました。そしてたっぷり時間を与えられ、その時間を使って自分の好きな方向に深く分け入って勉強する、そういう勉強方法をこちらでは良しとするのだと感じました。アメリカの大学のように、日本でももっと学生に勉強させるべきだとの声もありますが、また一方で日本の大学が経て来た歴史を考えると、大学レベルになれば勉強は自分ですべきものだし、自分で独創的な道を歩む方法を見つけるべきなのだから、時間が与えられていることをありがたいと思いました。もう一つ忘れられないのは、いろいろな先生方の人格に触れることのできた講義がたくさんあったことです。アメリカではその課目の知識を叩き込んでくれるのですが、同志社大学では先生方が一生をかけて研究なさっていること、それ自体が講義になることがあります。先生が教壇に立っておられて、学生がノートをとっている、それだけでも、先生の人格というものがよく分かると思うのです。

三反田●そうですね、これだけのことを熱意を込めてやってるんだよ、という気迫を感じることがあります。ところで、二至村先生は、GHQ占領期の日本の保健政策について研究を続けておられるわけですが、何か思い入れがあるのでしょうか。

二至村●私は2歳で肺炎にかかりましたが、ペニシリンのおかげで助かったそうです。また8歳の時には、父が結核のため突然喀血して重体になり、ストレプトマイシン系の薬がなければ死んでいました。もし昭和30年代で父を亡くしていたら、私が大学に進学することはなかったでしょうね。あと、学校給食メニューです。脱脂粉乳のおかげで背丈は160センチまで伸び、アメリカの女子大学の同級生と対等に話ができ、ケンカのときにも便利でした(笑)。いずれもGHQのサムス准将が日本に導入したもので、そういう自分の健康の原点が、いかに占領期の保健政策に由来していたかということを、しみじみありがたかったなあと思うようになったのです。また私は30代後半から10年あまり父を介護しました。介護をとおしても健康の大切さをしみじみと感じたので、「健康についてGHQがどんな規制をしたのか」というテーマで18年前から研究を始めたのです。介護のかたわら少しずつインタビューや史料収集を続け、それが『エキリ物語』と『日本人の生命を守った男―GHQサムス准将の闘い』の原稿にまとまりました。

三反田●ではその研究にあたって、気を付けておられることはありますか。

二至村●研究には資料というものが必要ですよね。私はその資料を残した人の立場に立って理解をするように留意しております。というのも、理論や仮説を組み立てるという方法が私の研究にはそぐわないような気がするのです。したがって、私の著書には理論も仮説も主義もなく、むしろいろいろな立場の人が残した資料を、別の資料などを使って理解して、なぜこう残されたかを考えながら書き綴るようにしています。そのときは感傷と誇張、この2つを排除します。私自身、感傷と誇張の固まりなのですが、であるからこそ、最初に書いた原稿を半分くらいまで減らします。感傷と誇張を全部外せば、そうなるからなのです。

三反田●私も占領期日本について研究しているのですが、史料の中に原爆による被ばく者を並べて数字の書かれたボードを持たせている写真を見たことがあります。持たされた人々の心境を考えると辛い気持ちになりました。でもこの気持ちは私の研究として記すべきではない、私の解釈や感情を込めるべきではないと自分に言い聞かせました。

二至村●そう聞きますと、三反田さんは立派な研究者におなりになりますよ。

三反田●いえいえそんな…。そういえば二至

INTERVIEW

GHQ占領期保健制度研究者 二至村 菁さんに聞く

細谷 正宏（ほそや まさひろ） 教授

【大学院アメリカ研究科教授】

占領期の日本における経済改革、財閥解体、経済パージ、経済界の再編成、民主改革と独立回復後の日米関係がどのような諸勢力によって再編成されたかなどについて研究する。

村先生は著書の中で32人もの方にインタビューされていますね。

二至村●たしかに多くの方からお話を聞きましたが、最初のころ、細谷先生の研究室に伺って、「○○とおっしゃる方にお目にかかることができて、こんなお話を…」とわくわくしてお伝えしたことがありました。すると先生は「誰かがこう言ったからといって、その通りだとは限らない。やっぱり資料で本当かどうか調べるべきだよ」と教えてくださったのです。資料で確認することの重要さに改めて気づきました。

細谷●私もインタビューをしますが、難しいですよ。記憶違いはよく起こります。特に占領期っていうのは昔の話ですから、正確に覚えている人も中にはいますが、唯一の裏付けにはならない。ただ、当時を知るためのバックグラウンドの情報としては重要ですね。

二至村●資料といえば、こんなこともありました。『日本人の生命を守った男』の校正をしていた時に、締切間際でそれをもう一度確認しに行く時間がない。そこで、図書館の司書さんにお尋ねして、電話で教えていただくより他にない、という状況になりました。そのままにしていても大したことではないかもしれないけれども、私の良心が許さなかったのです。そこで、同志社大学ならば…と考えまして、図書館に電話をかけて、これをこういう事情でどうしても調べたいと申しましたら、ご親切に、すぐにお答えをメールでいただけました。あわてていまして、私は同志社大学の卒業生ですとは言わなかったと思うのですが、快く対応してくださいました。

三反田●そんなご苦労もあったのですね。

二至村●この本の背後には、大変な失敗がうず高く積まれています。たとえば、インタビューで失礼なことを申しあげてつまみ出されたこともありましたし、電話をかけても手紙を送っても返事がないとか、基礎的な史料（じつはその先生の編著書）を読んでいないと怒られたりということもありました。2冊の本は、その失敗の山の上にやっとできたものであって、それまでには助けてくださった多くの方々がいらっしゃるということなのです。これは在学中の方にも申しあげたいのですが、よく「失敗を恐れずチャレンジせよ」なんて言います。でも失敗はだれでも当然恐れますよね。でも失敗をたくさんしますと、もう慣れてくるんですよね。失敗を恐れなくなるには失敗を山ほどすればいい、これが私の経験に基づいたメッセージです。50代になった私が、この先どう変わるか分からない世の中を背負って生きていかれる皆様に、ああすべきだ、こうすべきだ、なんて言葉は出てまいりません。ただただ頑張っていただくというより他ないですし、我々がなんとか応援させていただきたいと思うだけなんです。

三反田●ありがとうございます。この本を通じて後世に伝えたいメッセージがありますか。

二至村●占領期は複雑な時代でしたので、伝えたいメッセージも複雑です。本を書くのに集めたサムス准将についての史料が大量にあるので、それをこの先もまとめていこうと考えております。また18年かかるかもしれませんがお待ちいただけますか？

三反田●ええ、もちろんですとも。

INTERVIEWER

三反田（さんたん） ひとみ さん

【大学院アメリカ研究科博士課程（後期課程）1年次生】

同志社女子大学卒業後、本学大学院アメリカ研究科へ。『GHQ/SCAPによる公娼制度廃止』をテーマに、GHQの売春政策を修士論文で取り上げる。GHQ資料室の利用申し込みの際、二至村先生と偶然に鉢合わせしたことがあったとか。「こんな形でお会いできるとは」と、感激することしきり。

著書から受けた印象のとおり、本当にパワフルな方でした。

GHQの占領についてはいろいろな評価があり、必ずしもプラスのものだけではありません。でも二至村先生の書かれた2冊の著書を読ませていただくと、公衆衛生福祉局というセクションが、日本人の健康状態を良くしようと頑張ったことや関わった人々の意気込み、そして当時の日本人の感情がすごく良く伝わってきました。実際にお会いしてお話を伺ってみると、先生は著書から受けた印象のとおり、本当にパワフルな方でした。私も占領期の日本を研究していますが、その研究を通して、その時代の人々がどんなふうに活動し生きていたかという歴史の事実を後世に伝えていきたいと思います。

Campus News
キャンパスニュース

2003年度 卒業式・学位授与式、2004年度 入学式の日程が決まりました

卒業式 学位授与式（学部）（大学院）		
栄光館		場所
3月20日（土）		日時
14時30分	神学部 神学研究科	学部・研究科
12時30分	文学研究科 （哲・文化史・心理・国文・美芸・教育学専攻）	
10時	文学部（文化学科） 文学部 （英文学科・社会学科） 文学研究科 （英文・社会福祉・新聞・社会学専攻） 法学部 法学研究科	

入学式（大学院）	入学式（留学生別科）	入学式	
栄光館	神学館礼拝堂	京田辺校地 デイヴィス記念館	場所
4月3日（土）	4月2日（金）	4月1日（木）	日時
10時	16時	14時	学部・研究科
全研究科	留学生別科	商学部 工学部	
		12時	
		法学部 経済学部	
		10時	
		神学部 文学部 政策学部	

修了式（留学生別科）	卒業式 学位授与式（学部）（大学院）	
アーモスト館ゲストハウス	京田辺校地デイヴィス記念館	栄光館
3月19日（金）	3月22日（月）	3月21日（日）
11時	13時	12時30分
留学生別科	工学部 工学研究科	商学部 商学研究科 アメリカ研究科
		10時
		経済学部 経済学研究科 総合政策科学研究科

アーモスト大学・同志社グリークラブ交歓演奏会

6月4日、アーモスト大学女声コーラスおよびグリークラブの一行64人が来学。同志社グリークラブとのジョイントコンサートと交流会が開催された。

5月26日に来日し、東京、遠野、金ケ崎での行事を終えた一行は、4日午後、今出川キャンパスに到着。アーモストハウスと良心碑を見学した後、コンサート会場となった栄光館でリハーサル、17時からの演奏会に臨んだ。聴衆には一般市民の姿も目立ち、会場はほぼ満員の盛況となった。

演奏会は、同志社グリークラブ、アーモスト大学女声コーラス、アーモスト大学グリークラブの順に行われ、最後に合同合唱を行った。2年前の9月、同志社グリークラブがアーモストを訪問した際に起こった不幸な出来事（9・11同時多発テロ）に対して当時のメンバーが共に歌って犠牲者を追悼した「見上げてごらん夜の星を」を合同で再演すると、会場からは共感の万雷の拍手が巻き起こった。両大学の交流の深さと親密さを象徴する素晴らしい情景であった。

ひきつづき19時から同窓会館で行われた交流会では、冒頭に同志社グリークラブ顧問の岸基史経済学部助教授から、所用のため欠席した八田英二大学長のメッセージが代読され、その後、各クラブ代表者のあいさつ、記念品の交換、両大学カレッジソングの交換等が行われた。それらの合間には会場のあちらこちらから自然と歌声が沸き起こり、歓声と笑い声の絶えない合唱サークル同士の会ならではの楽しいひとときを共有した。

新規採用教員一覧

●今年度10月1日から新たに11人の先生方をお迎えします。①所属（学科）②職名③主な担当科目※（ ）は専攻

富田 健次（とみた・けんじ）
①神（神）
②教授
③イスラーム文化学

山形 頼洋（やまがた・よりひろ）
①文（文化）
②教授
③現代哲学特講Ⅰ・Ⅱ

Mark RICHARDSON（マーク・リチャードソン）
①文（英文）
②助教授
③英米文学特論

田中 あゆみ（たなか・あゆみ）
①文（文化）
②助手
③（教育心理学）

森 裕城（もり・ひろき）
①法（政治）
②助教授
③政治過程論

田中 靖人（たなか・やすひと）
①経済（経済）
②教授
③国際経済

和田　喜彦（わだ・よしひこ）
①経済（経済）
②助教授
③環境経済

柿本　昭人（かきもと・あきひと）
①政策学部設置準備室
②教授

山下　淳（やました・あつし）
①政策学部設置準備室
②教授

今里　滋（いまさと・しげる）
①総合政策科学研究科（総合政策科学）
②教授
③行政研究特講

高橋　宏司（たかはし・こうじ）
①法科大学院設置準備室
②助教授

経済学部 基礎ゼミナールの取り組み

経済学部では、新入学生を対象に「基礎ゼミナール」を開講しています。日本中の高校から集まった、意欲に溢れる新入学生の皆さんは、当初多くの学生や広いキャンパスを見て「どうして良いか分からない」といった戸惑いを感じるようです。それはまた、高校までの勉強と、大学における学習や研究という姿勢の違いにも関わる問題です。

「基礎ゼミナール」では、経済学部の専任教員が、春学期に、毎週一回、ゼミナール形式で学生諸君を指導します。大学生になって「学ぶ」ためには、自ら関心を持って考え、より深い理解、より高度な知識を求める姿勢が重要です。そのための条件や技術として、①文献・資料の検索と収集、②レポート・論文の書き方、③ディベート（討論）、④プレゼンテーション（発表）という4つの目標を掲げています。担当者は、それぞれの視点から、学生たちに経済学の考え方や問題を紹介し、関心を刺激するように努めます。

「基礎ゼミナール」のもう一つの目的は、キャンパスの中に親しい「仲間」を見出すことです。専門のインストラクターによる「コンピューティング・クラス」や英語クラスとあわせて、毎週三回、この同じ学生たちが集まって授業に参加します。彼らの間でキャンパスや学生生活に関する情報を交換し、講義について教え合い、試験準備なども協力する最初の「仲間」が育つでしょう。

キャンパスも教員も、学生諸君が学ぶことを助ける、生きた道具です。学生たちが自ら積極的にこれらを利用し、知識を求めるとともに、それを用いて現実の問題に挑まなければ、経済学は退屈なテストの繰り返しです。「基礎ゼミナール」で仲間と語り合い、先生に質問し、議論する中で経済学の面白さや重要さを知ってほしいです。

京田辺キャンパス通学路に防犯設備設置

京田辺キャンパス通学路に防犯設備が設置されました。これは、昨年から今年にかけて本学学生が深夜帰宅途中に通学路で暴行を受ける事件があり、大学が田辺警察署と協議のうえ設置したものです。南鉾立歩道橋東側に非常用通報ボタン（夜間18時～翌朝7時田辺警察署に通報、昼間7時～18時女子大学門衛所に通報）5カ所、非常用サイレン、インターフォン（女子大門衛所と通話可能）を設置し、また防犯カメラを南鉾立歩道橋東側と女子大学正門に設置しました。非常時には押しボタンを押して連絡してください。

本学教員の新刊（総合情報センター調べ）

社会福祉ライブラリー2 地域福祉概説　井岡　勉　他　著　明石書店　2200円

最適設計ハンドブック―基礎・戦略・応用―　三木光範　他　著　朝倉書店　26000円

オープニングアップ 秘密の告白と心身の健康　余語真夫　他　著　北大路書房　2400円

有斐閣選書865　概説ドイツ史 現代ドイツの歴史的理解　望田幸男　他　著　有斐閣　2500円

転換期の刑法哲学〈第二版〉　上田健二　他　著　成文堂　8000円

新・数理工学ライブラリ　数学1 理工学のための数値計算法　水島二郎　他　著　数理工学社　2000円

ナショナル・アイデンティティ論の現在 現代世界を読み解くために　亀谷良合佳　他　著　晃洋書房　2900円

研究叢書298　日本歌謡研究大系上巻 歌謡とは何か　日本歌謡学会／駒木敏　他　著　和泉書院　12500円

西洋の歴史基本用語集［近現代編］　望田幸男　著　ミネルヴァ書房　2000円

歴史文化ライブラリー155 農政の原点をさぐる　近現代日本の農村　庄司俊作　著　吉川弘文館　1700円

アメリカ経済史の新潮流　肥後本芳男　他　共編著　慶應義塾大学出版会　3200円

キリスト新聞で読む戦後キリスト教史　キリスト新聞社編　原誠　監修　キリスト新聞社　2000円

国際組織と国際関係　地球・地域・ひと　鷲江義勝　他　著　成文堂　2800円

ADRの実際と理論Ⅰ　佐藤鉄男　他　著　中央大学出版部　4000円

オーストラリアのアイデンティティ　有満保江　著　東京大学出版会　5800円

21世紀の都市を考える　宇沢弘文　他　著　東京大學出版会　3600円

近代日本経済史研究の新視角　藤田貞一郎　著　清文堂　13000円

新現代社会福祉法入門　第2版　岡本民夫　井岡　勉　他　著　法律文化社　3300円

シリーズ現代経済研究22　教育改革の経済学　浦坂純子　八木匡　著　日本経済新聞社　3800円

仕事の社会科学 労働研究のフロンティア　石田光男　著　ミネルヴァ書房　3500円

ネオコンとは何か　アメリカ新保守主義派の野望　田原牧　著　世界書院　880円

知識ビジネス　太田進一　他　著　晃洋書房　2500円

同志社ハワイ寮のルーツを訪ねて

ハワイ寮出身者で組織する「Friend Peace Society」は4月11日から16日までの4泊6日の日程でハワイ・ホノルルに有志による親善使節団を派遣した。

今回の旅はハワイ寮の寄贈者であるリチャーズ夫妻の足跡、ハワイ寮のルーツに触れる旅であり、50歳代から75歳に及ぶ21人のハワイ寮出身者等が参加した。ホノルル滞在3日目の4月13日、使節団一行はホノルル在住エディ山崎先生（1952～53年ハワイ寮臨時寮監、同志社で英語の教鞭を執られた）と共に、まずヌウアヌにあるジョン・ヤング先生（1947年～61年ハワイ寮寮監、神学部教授）ゆかりのCommunity Church of Honoluluを訪問、大勢の教会メンバーに出迎えられ、全員に美しいレイが贈られ温かい歓迎を受けた。そして日曜礼拝に参加後ヤング先生の墓前で祈祷。その後、リチャーズ夫妻のお墓があるカワイアハオ教会を訪ね献花、ご夫妻がハワイ寮に寄せられた多くのご厚意に深謝、国際友好親善と世界平和推進の使命遂行を誓約、献祷した。そしてリチャーズ夫妻直孫であるミドキフ氏のカハラのお宅を訪問、ウェルカム・レセプションではカレッジソングの斉唱などで楽しいひと時を過ごした。その後、観光地巡りやショッピングを楽しみ、大変意義あるハワイ寮のルーツ歴訪の旅を終え、たくさんの楽しい想い出をお土産に全員無事に帰国した。

なお、1996年にハワイ寮設立60周年記念事業の一環としてハワイ寮出身者を中心にリチャーズ夫妻の理念に沿った同志社ハワイ寮基金を設立、日本と環太平洋諸国との国際交流促進並びに相互理解に寄与する文化、学術、福祉活動およびそれに関連する研究に携わる奨学生を毎年1～2人選考し、研究資金の支援を行っている。

ハワイ寮奨学金問合せ先　小林敬三（同志社ハワイ寮基金運営委員長）
〒611-0002
京都府宇治市木幡桧尾44―55
TEL/FAX 0774―32―0113
Friend Peace Society ハワイ旅行幹事
加藤泰男（1968年経済学部卒業）

同志社布哇（ハワイ）寮Friend Peace HouseはハワイFriend Peace Foundationのセオドア・リチャーズ夫妻がキリスト教的国際友好親善と平和促進に献身する学生の学生寮として1936年に同志社創立60周年を記念して同志社に寄贈された。

1997年秋に旧館のFriend Peace Houseと新館のHawaii Houseが大改修され、装いも新たに寄贈者のご意志に沿うべく国際友好親善と世界平和促進の場として同志社大学学生や関係者によって大いに利用されている。

新学部・学科および研究科の2004年度入学生学費について

2004年度新設予定の学部・学科および研究科に係る当年度入学生学費が、6月28日開催の法人理事会・評議員会において決定されました。主な内容をお知らせします。

1．工学部情報システムデザイン学科および環境システム学科の学費については、既定の工学部の学費を適用する。

2．政策学部の学費については、既存の文系学部の学費と同額とする。

3．司法研究科（法科大学院）の学費については、表1のとおりとする。

4．ビジネス研究科（専門職大学院）の学費については、表2のとおりとする。

このほか、司法研究科およびビジネス研究科の科目等履修生、聴講生、委託生の学費が決定されました。

表 1

	第1年次	第2年次	第3年次
入学金	250,000		
授業料	1,379,000	1,451,000	1,451,000
教育充実費	149,000	157,000	157,000
計	1,778,000	1,608,000	1,608,000
入学手続時納入学費	1,014,000		

①授業料、教育充実費については、各々2分の1を春学期学費および秋学期学費とする。
②学内進学者の入学金については2分の1とする。
③所定の修業年限を超えて在籍した場合の学費は、直前年次の学費を適用する。
④休学を許可された者の学費は、休学在籍料を適用する。

表 2

入学金	250,000
固定授業料（年額）	240,000
単位授業料（1単位につき）	48,000
教育充実費（年額）	220,000
入学手続時納入学費	480,000

①固定授業料、教育充実費については、各々2分の1を春学期学費および秋学期学費とする。単位授業料については、各学期における登録単位数に応じて徴収する。
②学内進学者の入学金については2分の1とする。
③入学手続時に納入必要な学費は、入学金、固定授業料の2分の1および教育充実費の2分の1とする。
④所定の修業年限を超えて在籍した場合の学費は、固定授業料、教育充実費および登録単位数に応じた単位授業料とする。
⑤休学を許可された者の学費は、休学在籍料を適用する。
⑥専門職大学院学則第7条第3項に該当する者（長期履修学生）については、休学期間および学籍のない期間を除いて入学時から通算2年を超えた学期より、固定授業料を免除し、教育充実費を2分の1とする。ただし、認められた修業年限を超えて在籍した場合（再修生）はこの減免措置を適用しない。

フロイデ独和辞典
山本雅昭、岸孝信　他　著　白水社　4000円

東北中世考古学叢書3 遺跡と景観
東北中世考古学学会編
鋤柄俊夫　他　著　高志書院　2500円

シリーズstartline1 わからなくなった人のためのアメリカ学入門
遠藤徹　他　著　洋泉社　1300円

よくわかるキリスト教@インターネット
小原克博　野本真也　著　教文館　1500円

本学教員の推薦する

BOOK

辰巳 和弘
【歴史資料館助教授】

Kazuhiro Tatsumi

”生きる“とは。新しい民俗学叙述への挑戦。

野本寛一は歩く。ひたすら歩く。生活者の先達である古老の体験や伝承に、日本文化の特質と日本人の生き方を求めて。顔に走る無数のしわに刻まれた多彩な生きざまと、それを支えた豊かな知恵を聞き採り、そこから日本文化の伝統や特質を考え、日本文化のあり方、日本人の生き方を探りだそうと。大著『焼畑民俗文化論』『生態民俗学序説』をはじめ、これまで二十数冊にのぼる、膨大な日本民俗文化論を世に提示し続けてきた筆者のまなざしは、常に、その民俗事象を体現してきた先人達に向けられる。

古老からの聞き採りを重ね、学問として論理的体系化を進める過程で、個々の人間の生きざまやその奥底にある感情が捨象され、漏れ出してしまうことに、物足りなさと淋しさを痛感した野本は、個人の人生を追いかけ、血の通った人間の営みの積み重なりのうえに成り立つ民俗の学があることに思いを巡らす。

一九七〇年代、静岡県の県立高校教員であった野本は、駿河湾や太平洋の沿岸地域から、大井川や天竜川上流の山懐深くまで、県内各地を歩き、古老の話に耳を傾けた。『庶民列伝―民俗の心をもとめて』は、列島の一隅に生きた庶民の人生と生活に焦点をあて、父祖の時代の民俗状況を復元するとともに、否応無く人生に割り込む国家という権柄を甘受しつつも、たくましく生き貫いた庶民の生活を活写する。

本書には三十余人の人生が、力ある明晰な文章で語られる。その多くは明治生まれである。草屋根葺師・馬の装蹄師・風呂鍬作り・馬力屋・家畜商・富士の強力（ごうりき）・焼畑の出作り・猟師・「取り上げばあさ（産婆）」・土木工夫・揚浜式による塩作り・煮干し作り・芋切干づくり・砂糖づくり・海苔づくり・紙漉き・杜氏・茶揉み技術を伝習するお茶師・・・。職の多彩さ。しかも、地勢や風土の特徴を生かして、ひとりの人間が幾つもの仕事を季節的に循環させる例が多い。ひとつの職業をもった生活者など、どこにもいない。職業の重層性・複合性、また予期せぬ戦争や社会の激変による転業のはなはだしさに野本は驚き、そこに庶民のエネルギーを感じとる。行間には、民俗文化の継承者として真摯に生きる人生の先達への、限りない敬意と慈愛があふれる。

読者は人間野本のまなざしを通して、列島のごく一部にすぎない静岡県下に、かくも多様な民俗事象が存在したことに驚くだろう。

ファインダーの向こうにある笑みを浮かべる庶民の姿。採譜された、多数の作業歌（民謡）。一年を循環する仕事暦。そこに確かなフィールド調査がある。

「野本民俗学」は、庶民たちの生き方に向う、飽くなき関心のうえに繁り立つ大木である。木陰に憩う読者は、限りなく豊かに脈々と流れる民族の知恵や伝承の世界に遊び、それを受け継いできた先人たちと対話し、交感することができる。そして、列島に生きる民のひとりとして、子孫にどのような文化を残すことができるのかという、筆者からの厳しい問いかけにさらされることになる。

二〇数年ぶりに復刊された本書は、現代の若者の生き方に警鐘を鳴らして止まない。

『庶民列伝―民俗の心をもとめて』

野本 寛一　著
2000年 発売元：白水社
定価：2,800円（税別）

本学教員の推薦する

CD

清水　穣
【言語文化教育研究センター助教授】

Minoru Shimizu

イラクから遠く離れて

民族音楽を愛する者のあいだでは、ラジオ・フランスのプロデュースでハルモニア・ムンディから出ている民族音楽専門のレーベル「オコラ　Ocora」は、その卓越した監修とすばらしい録音品質でつとに有名である。ここで紹介するCDは、バグダッドの伝説的名手ムニール・バシールによる、イラクの民族楽器カームの、すなわち12種類の音階のもととなった。偉大な予言者たちは、神の恩寵により、様々なマカームのどれか1つによって歌った。アダムは マカーム・ラースト、モーゼはマカーム・ウシャーク、ヨーゼフはマカーム・イラーク・・・というように。」ウードは神と語らい、神を讃え歌いあげる楽器である。それはまた、西に向けてはリュートやギターの源流となり、東に向けては日本の琵琶の源流となった楽器であって、中世イスラム世界を通じてカリフたちに愛され高度な発達をとげた。

中世イスラム世界はヨーロッパよりも遙かに進んだ世界であった。「ルネサンス」すなわちギリシア・ローマ世界の「再生」などと言っても、現実には中世末期のヨーロッパ人は、ギリシアとローマ文明のほぼ全てをアラビア語からの翻訳によってイスラム世界から教えてもらったのみならず、そもそも紀元1世紀頃の世界は、アラビアもアフリカも含め地中海から黒海に拡がる世界だったのであり、イスラムはその豊かな広がりから生まれてきた文明なのである。

何百種類とあるマカーム（音階とリズムパターン）は4分音（半音の半分の音程）を含む繊細な音階であり、平均律に慣れた我々の耳には神秘的に響く。ウードの音楽は、それら伝統的なマカームを組み合わせ、一瞬一瞬に自由な即興を加えながら演奏される。伝統が、いまここでそのつど鮮やかに蘇るわけである。太い弦が激しく弾かれ、情熱的でありながらどこか冷たい深みを秘めた音はあくまでも優雅で、宗教性を失わない。

私はまったくイスラム文明に詳しくないし、アラビア語も出来ない。その私をイスラム文明につないでいるのはひたすら音楽であり、こういう偏った関心は現代のアラブの現実を思えばかなり無責任であろう。日本といえば源氏物語で止まっている差別的な日本学者のように、イラクは私にとってまずウードの国なのだ。フセインと石油の国でもなく、原理主義者にハマスの国でもない。「恋人たちのリュートから迸るメロディーを聴け、それは真のダヴィデの頌歌、過去にも未来にも思いを馳せてはならない、瞬間だけがあるのだ、それが心の安らぎの秘密なのだ。（ルバイヤート）」千夜一夜物語とルバイヤートを満たしている、中世イスラムの響きを、ぜひこのCDで聴いて欲しい。

『イラク～ウードの巨匠／ムニール・バシール』

1971年 発売元：オコラ　キングインターナショナル
C58-0068　価格：オープンプライス

ウードの独奏をおさめたもの。

ウードはその語源を聖書の世界に発している。「モーゼはシナイの砂漠で神に出会った。大天使ガブリエルが近づいてきて言った。汝の棒で岩を打てと。棒で岩を打つと、そこから12の泉が湧き出し、それぞれの泉が心地よい音をたてた。」ウードの語源はこの木の棒である。伝説はさらに語る。「これらの泉が12の

One Purpose Library
～卒業生の新刊図書～

『わたしの消費者運動　野村かつ子評論集』
野村 かつ子さん（1941年文学部卒業）
緑風出版　2800円(税別)

『ファクタリングの実務』
志村 和次郎さん（1961年法学部卒業）
中央経済社　2600円(税別)

『日韓交渉 請求権問題の研究』
太田 修さん（1986年文学部卒業）
クレイン　3500円(税別)

MY LIFE

「仕事」

こんなに話し上手になっていた。
英語でビジネス文書を書いていた。
卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して
級友の方々にとっては良き近況報告、
生活の現実を考える機会になれば幸いです。

MY JOB MY LIFE

仕事と家庭を両立させてずっとものづくりを続けていきたい。

カメラマンになろう。そう決心したのは、内定をもらった大手流通企業の新人研修風景が映し出されたビデオを見ている時でした。その時まで私は、この企業に就職するか、それとも大学3年次生からはじめたカメラマンのアシスタントを続けるのか、自分のなかで結論を出しかねていました。前者の大企業と比べ、後者は収入が安定しないフォトスタジオ。でもずっと好きだった写真を続けたいという思いから、内定を辞退してカメラマンの世界に飛び込みました。

しかし、大学を卒業してすぐに結婚、そして妊娠。子供が生まれると、出張が多く勤務時間が不規則なフォトグラファーを続けるのは難しい。体力的にも厳しい面があって、出産前に辞めざるをえませんでした。それは、私にとって大きな挫折でした。それからしばらくして、辞めたスタジオの社長からのアドバイスもあり、もともと好きだったデザインを独学で勉強しはじめました。そして、ある程度技術が身についた段階で、グラフィックデザイナーとして元の職場に再就職しました。

現在、私はアパレルのカタログや会社案内などの企画・制作のほかに、コマーシャル撮影のディレクションも手掛けています。会社でただ一人のデザイナーとして、クライアントと一緒になってよりよいものをめざして仕事に励む毎日です。そのなかでも何度も修正して、よいものができた時の喜びはひとしおです。

家庭を持ちながらここまで仕事を続けてこられたのは、やはり家族や周囲の人たちの理解と協力があったからだと思います。子供が小さい時には、少し離れた所に住む両親に無理を言ってよく預かってもらいました。会社では、勤務時間の調整をある程度自由にさせてもらい、家庭の事情に合わせて早朝や夜中に出社することもあります。そして何より夫の協力が大きいですね。夫は、私と同じ業種の仕事に就いているのですが、私以上に家事をしてくれます。子供が保育園に通っていた時も仕事を調整してよく送り迎えをしてくれました。お互いのスケジュール調整がうまくいかず喧嘩することもありますが(笑)。いま小学5年生の息子からは、「仕事辞めないで。もし辞めると僕の自由もなくなるから」と励まされています(笑)。

ただ、これからもずっとグラフィックデザイナーとしてやっていくかどうかは分かりません。それは、家庭などの状況に合わせて、自分のできることやしたいことも変わっていくと思うからです。自分のライフスタイルはこれしかないと決めるのではなく、状況に合わせて柔軟に変えていく。このことを家庭を持ちながら仕事をするなかで学んだように思います。ただ、クリエイティブなものづくりだけはやめずに続けていきたいですね。学生の皆さんも何をやってもうまく行かないような状況に置かれた時は、ただ嘆くのではなく、できることを積極的に探していって欲しいですね。

P R O F I L E

矢谷 麻子さん

【1992年法学部政治学科卒業】
株式会社スタジオバウ　勤務

矢谷さんは映画にも興味があり、大学では、8mm映画を自主制作するサークルに所属したり、映画関係のアルバイトをしていたそうだ。「摩擦でフィルムが切れかけたら、すぐその部分をカットしてつなぐ映写技師のようなアルバイトをしながら、毎日ただで映画を見ていましたね(笑)。サークルでは、主人公の何気ない1日を描いた15分ほどの短編映画を制作して同志社EVEで上映しました。その映画を一緒に制作した友人とは、今でも良い仲間です」と当時を振り返る。

シリーズ MY JOB, 第21回 私と

学生時代、とても無口だったあの人が、
学生時代、英語の苦手だったあの人が、
このシリーズは、毎号それぞれの分野で活躍する
何を考えてきたかを取材しています。
学生諸君には将来のキャリア・プランと学生

MY JOB MY LIFE

既成概念にとらわれず、自由にやってみることで叶えたパイロットへの夢。

大学時代はフェンシング部の主将でした。高校から始めて、大学1年次にはU―20日本代表に選ばれましたが、戦績よりもそこで得た人間関係は、今でも人生の中心にあります。

工学部での講義・実験・課題とクラブで朝から深夜まで、一日中動き回っていました。もともと機械工学を学びたかったしフェンシングも続けたかったのですが、「工学部で体育会」なんて不可能だと、周囲からは反対されていました。でも私はそれを両立させたかったのです。同じ考えの仲間が他のクラブにいて、私たちは”理系体育会“などと言っていました。「体育会も勉強もちゃんとやろう」という集団で、試験前には勉強合宿をして、皆やり遂げることができました。

機械工学科ではメーカへの就職希望者が圧倒的に多いのですが、私にとってパイロットという仕事は物心のついた頃からの憧れで、日本航空なら訓練候補生の道があると知り受験を決めました。面接、筆記試験、身体検査があるのですが、その身体検査がかなり難関で、精密な検査が課せられ、医学的な測定値をクリアしなければなりません。私は結果的に合格しました。運の良さもありますが、丈夫に育ててくれた両親に感謝しています。こればかりは個人の努力で何とかできるものではないですから。

入社後約1年間は研修の一環として、空港の搭乗手続き、荷物の手配、乗客案内などの地上勤務に就き、その後パイロットの訓練が始まりました。訓練生の頃は1日、1カ月が過ぎるのがとても長く感じられ、パイロットになるなんて1億年も先のことのような気がしたものです。初めて空を飛んだ時の感動をよく聞かれるのですが、頭の中が真っ白になって、感動する余裕などは正直ありませんでした。現在は副操縦士として主にヨーロッパ路線を飛んでいます。機長の責任の重さとは比べ物になりませんが、絶対に事故を起こさない気持ちは同じです。以前アメリカ路線を飛んでいた頃、J・F・ケネディ空港でアメリカン航空機の事故を目の当たりにしました。私たちが離陸した20秒後に墜落したのです。事故はいつでも自分の身に起こりうることだと言い聞かせています。そんな緊張感につきまとわれながらなぜこの仕事を続けているのかというと、これは自分でもうまく言葉では言えません。でも、

とにかく「激しく面白い」のです。空というレールのない3次元空間、そして天候や乗客のコンディションも毎回違うフライトには、操縦の選択肢が無数にあり、何年やっていても決まった答えのない世界だからです。

既成概念に囚われず、自由な発想から夢を実現させるという意味で、アポロ計画の物語は私の中では重要な存在です。誰でも一度は月に行ってみたいと思いますが、普通は無理だと考えます。でも本気で挑んだ人がいて、実現させました。私自身も、「工学部だから体育会には入れない」ではなく、「工学部でもやればいいんじゃないか」という自由な発想をしました。パイロットについても私の両親からは「できないよ」と言われていましたが、実現できたのです。自分で思いつく程度のことは、「やればできる」ことだと思うのです。だから在学生の皆さんも、諦めるための理由を並べて「私なんかだめだ」ではなく、「私でもやってみれば」という自由な発想を持ってみるといいと思います。

P R O F I L E

田中　武志さん
【1993年工学部機械工学第二学科卒業】
日本航空株式会社
運航本部運航乗員室運航乗員部

スキーの腕も超一流の田中さん。大学時代の思い出をこう語る。「スキー部の友達がクロスカントリー用のスキー板をくれました。ある日、今出川キャンパスに30センチも雪が積もったんです。今だ！　と思って板を担いで早朝、京都御所に入り、さあ滑ろうとしたら、驚いたことに、すでにシュプールが二人分。あれにはやられました」。

第28回 外国文化週間

テーマ:「trans-」

【日　程】11月10日(月)～14日(金)
【場　所】京田辺校地
【入場料】一般公開・無料(申し込み不要)

講演Ⅰ　11月10日(月) 13:15～

【場　所】京田辺校地 恵道館302番教室
【テーマ】『〈性〉に抵抗する知のために』
【講　師】加藤秀一 氏(明治学院大学 社会学部教授)

講演Ⅱ　11月11日(火) 13:15～

【場　所】京田辺校地 多目的ホール
【テーマ】『同性愛／異性愛のポリティクス』
【講　師】河口和也 氏(広島修道大学 人文学部人間関係学科教授)

映画　11月11日(火) 15:00～

『セルロイド・クローゼット』(1995年/アメリカ/104分)
【場　所】京田辺校地 多目的ホール

対談　11月12日(水) 13:15～

【場　所】京田辺校地 恵道館106番教室
【テーマ】『トランス・ジェンダー ― 男／女の二元論、そしてジェンダーを越えて』
【講　師】石井達朗 氏(慶應義塾大学教授)　蔦森　樹 氏(作家・琉球大学兼任講師)

第10回日本ホラー小説大賞『姉飼』出版記念講演　11月13日(木) 13:15～

【場　所】京田辺校地 恵道館302番教室
【テーマ】『なにをぬ貸す？ 誰にぬ貸される？ ― ヴァーチャル・リアリティとしての言葉の世界』
【講　師】遠藤　徹 氏(言語文化教育研究センター助教授・作家)

ジョイントコンサート　11月14日(金) 17:00開場 17:30開演

【場　所】京田辺校地 多目的ホール
K. シュトックハウゼン『ティアクライス』『ツィクルス』
J. ケージ『アリア』『ONE4』『龍安寺』
バリトン: 松平 敬 氏　　打 楽 器: 小川 真由子 氏

【お問い合せ先】言語文化教育研究センター事務室
TEL. 0774-65-7070
FAX. 0774-65-7069

大使講座―今、世界を語る―

本誌134号でお知らせいたしました「現代外交官講座」は、講師が全て駐日大使となったためテーマ名を「大使講座―今、世界を語る―」に変更しました。

本講座は、読売新聞社との共催事業として、外交の第一線で活躍されているアメリカ・イギリス・ロシア・フランス・ドイツ・韓国・インドネシアの7カ国の駐日大使を秋学期に講師として招聘し、法学部の正規授業「特殊講義(大使講座―今、世界を語る―)」として開講いたします。

各大使には、複雑な相互依存下の国際社会での外交および外交官の役割の変容とその意義、当該国と日本との現在の重要な外交課題等についてリレー形式で講義していただきます。

講義では、各国の事情に精通した読売新聞社のベテラン記者にコーディネーターをつとめていただき、日本語以外での講義については同時通訳または逐次通訳をつけます。

なお、本講座を本学以外の学生、一般市民の方々にも広く公開するため、講義終了2～3週間後に、本学のホームページで当日の講義の模様をインターネット配信します。

招聘大使
〈米国〉ハワード・ベーカー氏
〈英国〉スティーヴン・ゴマソール氏
〈フランス〉ベルナール・ド・モンフェラン氏
〈ドイツ〉ヘンリク・シュミーゲロー氏
〈韓国〉趙世衡氏
〈インドネシア〉アブドゥル・イルサン氏
〈ロシア〉＊現大使の離任に伴い、後任の大使が講義の予定。

【科目担当者】村田晃嗣法学部助教授

スポーツフェスティバル2003(京田辺校地にて開催)

【日　時】11月1日(土)・2日(日)
【競技種目募集期間】10月6日(月)～18日(土)
【お問い合せ先】学生課(京田辺) TEL. 0774-65-7410

POINT ふらっと　映画上映・他・2003秋学期

【場　所】多目的ホール(京田辺校地)　【入場料】無　料
【時　間】毎週火曜日12:30～/15:00～　※①15:15　※②15:30

忘れない、感動の作品たち…

10月	7日(火)	たそがれ清兵衛　02年 日本(山田洋次監督) 129分※①
10月	14日(火)	シカゴ　02年 アメリカ(ロブ・マーシャル監督) 113分
10月	21日(火)	至福のとき　02年 中国(チャン・イーモウ監督) 97分
10月	28日(火)	京田辺夕暮れオータムコンサート　12:15～、16:00～
11月	4日(火)	戦場のピアニスト　02年 ポーランド／フランス合作(ロマン・ポランスキー監督) 148分※②
11月	18日(火)	ピノッキオ　02年 イタリア／アメリカ合作(ロベルト・ベニーニ監督)111分
12月	2日(火)	ラスト・プレゼント　01年　韓国　(オ・ギファン監督)112分
12月	9日(火)	京田辺夕暮れコンサート

同志社大学東京オフィス

2003年2月3日に東京大手町の日本ビルヂングに「同志社大学東京オフィス」を開設しました。

リエゾンの推進にその目的の一つを置き、産官学連携の深化のため関西だけでなく東京にその連携を広げることにより充実した展開を見据えています。

また、東京地区での就職活動を応援するため、同志社大学スタッフによる就職のアドバイス、パソコンの配備による情報収集、就職関連誌の閲覧が可能で、就職活動の時間調整、拠点として活用できます。

同志社の東京での活動の歴史は古く、現在まで多くの成果を挙げていますが、昨今の激変する社会に確固とした情報収集の拠点として「同志社大学東京オフィス」は社会への積極的な役割を担っています。

なお、東京オフィス内のセミナールーム(収容定員24人)は貸し出しが可能です。ご利用についての詳細は下記ホームページからご覧いただくか、東京オフィスへお問い合せください。
http://www.doshisha.ac.jp/zaigaku/riyou/shisetsu.html
【お問い合せ先】同志社大学東京オフィス
TEL. 03-3516-7577　　**FAX.** 03-3516-7579

同志社大学マンドリンクラブ第143回定期演奏会

【日　時】11月30日(日)18時30分開演(18時開場)〈予定〉
【場　所】京都府長岡京記念文化会館　【入場料】500円
【お問い合せ先】同志社大学マンドリンクラブ TEL. 075-251-3185(呼)
【URL】http://www.donet.gr.jp/~smd/

障がい学生支援制度スタッフ募集

アシスタントスタッフ(有償)とボランティアスタッフ(無償)を募集しています!
【お問い合せ先】学生課(京田辺) TEL. 0774-65-7410
教務課(今出川) TEL. 075-251-3200

One Purpose <ワンパーパス>

同志社大学通信136号

2003年10月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行　同志社大学　広報課
〒602-8580　京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3120　FAX 075-251-3080
E-mail ji-koho@mail.doshisha. ac. jp